一九三六年五月二十一日附
「インディアン・トレイド・ヂヤーナル」附錄

一九三四—三五年度　印度糖業概觀

印度カウンポル所在　帝國農業調査委員會
製糖技師　アール・シー・スリヴアスタヴア

目次

目次

圖表及び統計

圖表及び統計

圖表

統計

圖表及び統計

附錄

一九三四―三五年度印度糖業概觀

アール・シー・スリヴァアスタヴァア

一　序論

今次の概觀には新に一二の改訂を加へた。即ち本概觀は、印度糖業の急激なる發展に鑑みて、一九三〇―三一年度より其の範圍を擴張し、單に砂糖取引の統計及び糖價變動の表を記載するに止らず、農業及び製糖工業の部面に於ける技術的科學的發達に關する概說をも載せることにしたが、此の技術及び科學の部分は、今次より「印度に於ける農事及び製糖技術に關する研究概觀」と改稱することにした。

印度に於ける砂糖輸入及び消費高に關する統計に於いても、カチャワール諸港への輸入額を計算に入れることによつて、之が改善を行つた。詳細は「全印度砂糖取引」の項を參照せられたい。

本概觀は例の如く、一九三四―三五年度に於ける印度糖業界を取扱つたが、新式工場にあつては、一九三四―三五年度分蜜糖生産高――之に關しては二三の州にあつては曆年の終り近く糖業年度が終ることになつてゐる――及び一九三五曆年度グール糖精製高概算について之を觀察した。

（註、新式工場の中に於ける分蜜糖製造工場とグール糖精製工場とはその製糖年度のきめ方が異つてゐる。）

産糖高豫想及び實績報告は夫々「インディアン・トレイド・ヂャーナル」に左記の如くに順次掲載發表

した。

産糖豫想（全印度）

一、一九三四—三五年度印度新式製糖工場に於ける分蜜糖産額第一次豫想——一九三五年二月二十一日付「インディアン・トレイド・ヂャーナル」所載

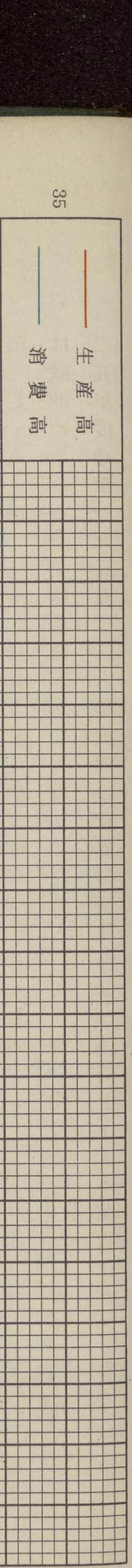
二、同最終豫想——四月二十五日付同誌上掲載

三、一九三五—三六年度印度新式製糖工場に於ける分蜜糖産額第一次豫想——一九三六年二月六日付同誌上掲載

産糖實績報告

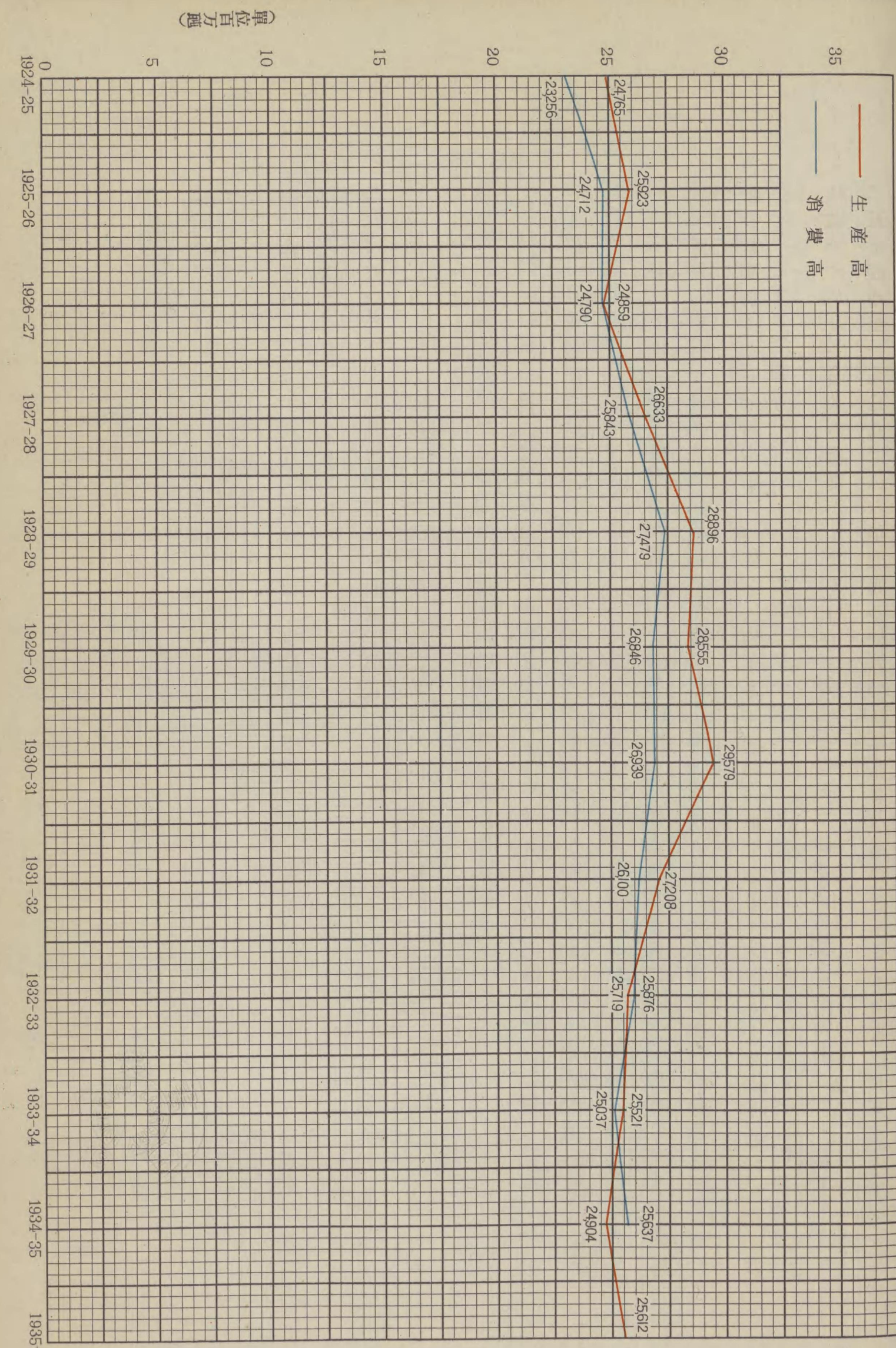
四、一九三四—三五年度印度新式工場分蜜糖産糖實績——一九三五年十月二十四日付同誌上掲載

一九三四年度に於いて、世界砂糖市場に影響を及ぼした恐らく最大の事柄は、合衆國政府が砂糖關税率を引下げ、且つ國内消費向砂糖の産額を割當制によつて調整せんとせる一連の方策であつた。此の割當制により米國市場に砂糖を供給する諸國の産糖を制限することを得たが、此の産糖の制限こそ、一九三四—三五年度世界甘蔗糖産額が前年に比し減少したる主たる原因であつた。尤も之は歐洲に於ける甜菜糖産額がかなり増加したことにより幾分相殺せられた。圖表Aは一九二四—二五年度乃至一九三五—三六年度間の世界砂糖生産及び消費を示す。本圖表はグスタフ・ミクシュ



圖表A　世

稅率を引下げ、且つ國內消費向砂糖の產額を割當制によつて調整せんとせる一連の方策であつた。此の割當制により米國市場に砂糖を供給する諸國の產糖を制限することを得たが、此の產糖の制限こそ、一九三四—三五年度世界甘蔗糖產額が前年に比し減少したる主たる原因であつた。尤も之は歐洲に於ける甜菜糖產額がかなり增加したことにより幾分相殺せられた。圖表Aは一九二四—二五年度乃至一九三五—三六年度間の世界砂糖生產及び消費を示す。本圖表はグスタフ・ミクシュ



圖表A 世界砂糖生產高及び消費高(一九二四—二五年度乃至一九三五—三六年度)

博士の發表せる所に從つて作成したものである。

一九三四—三五年度は全年を通じて、在荷の壓迫を受けた爲世界の糖價は低迷した。一時アメリカ市場に於いて昂騰したが、其には恩惠を蒙つたのは玖瑪糖のみで、ロンドン市場にその影響を反

博士の發表せる所に從つて作成したものである。

一九三四—三五年度は全年を通じて、在荷の壓迫を受けた爲世界の糖價は低迷した。一時アメリカ市場に於いて昂騰したが、其により恩惠を蒙つたのは玖瑪糖のみで、ロンドン市場にその影響を反映することなく同地糖價は不振を極めた。

爪哇糖業は糖價の崩落と輸出市場の萎縮の爲に窮況に陷り、他の砂糖輸出國が過剰糖を殆んど一掃せる折に尙ほ大量の滯荷を持て餘してゐた。然し、今や同地製糖業者は政府の援助の下に、甘蔗栽培の制限に向つて一歩を進めてゐるから、同島の滯荷も漸次減少することゝ樂觀してよいであらう。一九三四年四月初、爪哇白双賣値(倉渡値段)は百瓩建四盾一〇仙であつたが、逐次低落して、十一月半には同年の最低値三盾に達した。以後やゝ持直して、一九三五年三月末には三盾五〇仙となつた。第一表は爪哇白双、印度西海岸向賣値(倉渡値段)及び爪印爲替相場を示す。

第一表　爪哇白双賣値(倉渡値段)及び爪印爲替相場(印度西海岸向)

日時	爪哇糖賣値 一〇〇瓩建	爲替相場 一〇〇ルピーに付	爪哇糖印度輸入・採算 一モウンド當リ
	盾	盾	ルピー　アナ　パイ
一九三四年四月三日	四・一〇	五六5/8	二　一　二
一七日	四・〇〇	五六1/2	二　一〇　三
五月一日	四・〇〇	五六	二　一〇　七
二九日	三・七〇	五五5/8	二　七　八
六月一九日	三・六〇	五五1/8	二　六　一一

七月九日	三・六〇	五五3/8	二	六	九
二四日	三・六〇	五五5/8	二	六	七
八月一四日	三・六五	五五1/4	二	七	四
二八日	三・六〇	五五1/8	二	六	一一
九月一〇日	三・五五	五四1/8	二	七	〇
二五日	三・四〇	五四	二	五	六
一〇月九日	三・四〇	五三1/2	二	五	一〇
二三日	三・四〇	五四1/8	二	五	五
三〇日	三・二〇	五四5/8	二	二	一〇
一一月一三日	三・〇〇	五五	二	〇	六
二七日	三・一五	五四7/8	二	二	三
一二月一一日	三・一五	五四1/2	二	二	五
一八日	三・〇五	五四1/4	二	一	六
一九三五年					
一月一日	三・〇五	五四1/4	二	一	六
二二日	三・二〇	五三7/8	二	三	五
二月一九日	三・五〇	五三5/8	二	六	一一
三月一二日	三・五〇	五二	二	八	二
一八日	三・五〇	五二	二	八	二
二六日	三・五〇	五二7/8	二	七	四

印度市場は國内糖業が保護關税により外國の競爭より保護せられてゐるので、世界市場の一般的狀況に左右されることが少なかつた。然し印度の砂糖需要は國内の産額にては充足しきれないので、一九三四—三五年度英領印度諸港への砂糖輸入高は約二二三、〇〇〇噸に上つたが、前年度は二六一、〇〇〇噸であつた。印度糖業保護政策の確立以來國内糖の産額は逐年增加した。一九三四—三五年度は一三〇工場が作業し、その産額も前年の四五三、九六五噸に對し、五七八、一一五噸に達した。

印度市場は國内糖業が保護關税により外國の競爭より保護せられてゐるので、世界市場の一般的狀況に左右されることが少なかつた。然し印度の砂糖需要は國内の産額にては充足しきれないの

三月一二日	三・五〇	五二	二	八
一八日	三・五〇	五二	二	八
二六日	三・五〇	五二7/8	二	七
			二	四

で、一九三四—三五年度英領印度諸港への砂糖輸入高は約二二三、〇〇〇噸に上つたが、前年度は二六一、〇〇〇噸であつた。印度糖業保護政策の確立以來國内糖の産額は逐年增加した。一九三四—三五年度は一三〇工場が作業し、その産額も前年の四五三、九六五噸に對し、五七八、一一五噸に達した。同年の甘蔗栽培狀況は良好とは言へなかつた。聯合州内のメールート及びムザファルナガール區及びパンヂャブ州の大部分にわたる蔗園にては、惡天候及びピリラ其他の害蟲の襲來によつて其の收穫にひどい被害を被つた。收穫に及ぼしたる損傷の詳細な報告は本輯の後編を參照せられたい。

一　農　事

(一)　植付面積及びグール糖計算産糖額

一九三四—三五年度甘蔗收穫最終豫想に隨へば、甘蔗植付面積は前年度の三、三〇八、〇〇〇エーカーに對し、三、四七一、〇〇〇エーカーと豫想され、粗糖(グール糖)計算總生産高は、前年度の四、八七二、〇〇〇噸に比し四%增加の五、〇八五、〇〇〇噸と豫想されてゐる。

第二表は面積及び粗糖(グール糖)産額を州及び藩王國別に、本年度分と前二ヶ年の數字及び前五ヶ年平均數字とを併記し、併せて本年度と前年度及び前五ヶ年平均數字とを比較して增減を記せるものである。

第二表　甘蔗植付面積及び粗糖産額

	植付面積（エーカー）			本年度増（＋）減（－）		粗糖（グール糖計算）生産高（噸）			本年度増（＋）減（－）	
	一九三四—三五年度	一九三三—三四年度	前五ケ年平均		前五ケ年平均	一九三四—三五年度	一九三三—三四年度	前五ケ年平均		前五ケ年平均
聯合州	一、八三九、000	一、七三四、000	一、五三二、000	＋ 六・一%	＋ 二〇・八%	二、七八六、000	二、五七〇、000	一、七九三、000	＋ 七・三%	＋ 五三・八%
（ラムプール藩王國を含む）										
パンヂャブ	四六二、000	四六六、000	四三三、000	－ 〇・九	＋ 六・七	三六六、000	三六四、000	三二一、000	－ 三・二	－ 一・六
ビハール及びオリッサ	四四五、000	四二八、000	二六七、000	＋ 六・五	＋ 五五・一	六七三、000	六三三、000	三〇九、000	＋ 八・〇	＋ 二七・八
ベンゴール	二七六、000	二五七、000	二二二、000	＋ 七・四	＋ 三〇・二	四二二、000	四五七、000	二六一、000	＋ 七・七	＋ 四四・五
マドラス	一二二、000	一二〇、000	一〇八、000	＋ 一・七	＋ 一三・〇	三二一、000	三三五、000	三〇一、000	－ 一・二	＋ 六・六
ボムベイ	一二二、000	一〇三、000	九六、000	＋ 八・七	＋ 一六・七	三五八、000	三七〇、000	三五七、000	－ 四・四	＋ 〇・四
（シンド及びインド藩王國を含む）										
西北國境州	四二、000	四九、000	四九、000	－ 二・二	－ 二・二	四三、000	五四、000	五九、000	－ 二〇・四	－ 二七・一
アッサム	三三・000	三五、000	三三、000	－ 五・七	──	二二、000	四〇、000	三三、000	－ 二〇・〇	－ 三・〇
中央州及びベラール	二六、000	二九、000	二三、000	－ 三・四	＋ 二・七	四六、000	四八、000	三七、000	－ 四・二	＋ 二四・三
デリー	八、000	三、000	四、000	＋ 一六六・七	＋ 一00・0	五、000	一、000	三、000	＋ 四00・0	＋ 六六・七
マイソール	四五、000	四二、000	三九、000	＋ 七・一	＋ 一五・四	四一、000	四一、000	二九、000	──	＋ 五・一
ハイデラバード	五二、000	四六、000	三六、000(a)	＋ 一〇・九	＋ 四二・七	九三、000	七二、000	五七、000(a)	＋ 二九・二	＋ 六三・二
バロダ	二、000	二、000	二、000	──	──	三、000	三、000	三、000	──	──
ボパル（中央インド）	五、000	四、000	不詳	＋ 二五・0	──	四、000	四、000	不詳	──	──
合計	三、四七二、000	三、三〇八、000	二、八四四、000	＋ 四・九	＋ 二・九	五、〇五五、000	四、八七二、000	三、四九四、000	＋ 四・四	＋ 四五・四

註　(a)は四ケ年平均

第二表に詳記せる植付面積の他に、國内諸所に小規模乍ら栽培せられてゐるものあり、其の前五ケ年間平均面積は一二五、〇〇〇エーカー、産糖高は一八三、〇〇〇噸と推定される。

第三表は甘蔗耕作の點よりみての各地の相對的重要性を示すために、各州及び藩王國別に其の植

ハイデラバード	五一、〇〇〇	四六、〇〇〇	三六、〇〇〇(a)	＋一〇・九	＋四一・七	九三、〇〇〇
バロダ	二、〇〇〇	二、〇〇〇	二、〇〇〇	—	—	三、〇〇〇
ボパル（中央インド）	五、〇〇〇	四、〇〇〇	不詳	＋二五・〇	—	四、〇〇〇
合計	三、四七一、〇〇〇	三、三〇八、〇〇〇	二、八四四、〇〇〇	＋四・九	＋二一・九	五、〇八五、〇〇〇

註 (a)は四ケ年平均

七二、〇〇〇	五七、〇〇〇(a)	＋二九・二	＋六三・二	四、八七二、〇〇〇	三、四九四、〇〇〇	＋四・四	＋四五・四
三、〇〇〇	三、〇〇〇	—	—	四、〇〇〇	不詳	—	—

第二表に詳記せる植付面積の他に、國内諸所に小規模乍ら栽培せられてゐるものあり、其の前五ケ年間平均植付面積は一二五、〇〇〇エーカー、産糖高は一八三、〇〇〇噸と推定される。

第三表は甘蔗耕作の點よりみての各地の相對的重要性を示すために、各州及び藩王國別に其の植付面積及び粗糖産額（一九三三―三四年度を含む前五ケ年平均）を印度全面積及び全産額に對比し百分比にて示したものである。

第三表　甘蔗植付面積及び粗糖生産高各州別百分比

	一九三三―三四年度に終る前五ケ年平均植付面積百分比	一九三三―三四年度に終る前五ケ年平均グール糖生産高百分比
聯合州（ラムプール藩王國を含む）	五一・二	四八・七
パンヂヤブ	一四・六	八・七
ビハール及びオリツサ	九・七	八・四
ベンゴール	七・一	七・七
マドラス	三・六	八・二
ボムベイ（シンド及びインド藩王國を含む）	三・二	七・〇
西北國境州	一・六	一・六
アツサム	一・一	〇・九
中央州及びベラール	〇・八	一・〇
デリー	〇・一	〇・〇八
マイソール	一・三	一・一
ハイデラバード	一・二	一・五

バロダ	〇・〇七(a)	不詳
ボパル(中央インド)	〇・〇八(a)	不詳

註　(a)は四ヶ年平均

(二)　一九三四—三五年度甘蔗栽培狀況

聯合州にては、季節當初の降雨の過多と雨季明けの早過ぎた爲相當の範圍にわたつて收穫は惡影響を被つた。卽ち聯合州の西部メールート及びムザファルナガール區一帶及びパンヂャブ州の大部分は一九三四—三五年度收穫に相當の被害を受けたが、大體左の如き原因に依る。

a. 此地方の當季の雨量に過不足があつた。先づ六月末より九月初めにかけて引續き降雨あり、日照り日數少く、爲めに甘蔗內の糖分蓄積作用が妨げられた。

b. 九月第一週に雨が上ると、次いで十二月半に至る迄全く降雨を見なかつた。通常ならば、之によつて甘蔗の成育を助けその含糖率が高まるべき所、雨季が明けると同時に、ピリラ及びホワイトフライの發生を見、之が蔗葉を犯したので、甘蔗は糖分合成の爲に必要なる日光を受くることを得なかつた。

c. 雨季が上つた時、耕作者は旱害を恐れて多量の灌漑を行ふた。之が爲甘蔗の成育には好都合だつたが、登熱が阻害された。此の多量に過ぎた灌漑とピリラの被害と相俟つて、蔗汁の含糖率は低からざるを得なかつた。兩者が製糖作業に及ぼした被害は大きかつた。

d. 若しも其れ以後の天候が良好であつたならば、甘蔗の狀態も或程度持直したかも知れぬが、一月の半に霜害に會ひ、既に傷めつけられてゐた甘蔗は甚大な被害を受けて、或る地方の甘蔗はグール糖の製造にすら不適當のものとなつた。

天候狀態の不良はピリラ其他の病蟲害と相まつて、此等の地方の製糖作業に影響を及ぼした。卽ち

つた

c. 雨季が上つた時、耕作者は旱害を恐れて多量の灌漑を行ふた。之が爲甘蔗の成育には好都合だつたが、登熱が阻害された。此の多量に過ぎた灌漑とピリラの被害と相俟つて、蔗汁の含糖率は低からざるを得なかつた。兩者が製糖作業に及ぼした被害は大きかつた。

d. 若しも其れ以後の天候が良好であつたならば、甘蔗の狀態も或程度持直したかも知れぬが、一月の半に霜害に會ひ、既に傷めつけられてゐた甘蔗は甚大な被害を受けて、或る地方の甘蔗はグール糖の製造にすら不適當のものとなつた。

天候狀態の不良はピリラ其他の病蟲害と相まつて、此等の地方の製糖作業に影響を及ぼした。卽ち本年度のグール糖の品質は一般に粗惡だと報ぜられる。パンヂャブ州にては七・八月の降雨狀態は良好だつたが九月には不足氣味であり、十・十一月及び十二月半に至る旱魃は收穫に惡影響を與へた。州の諸所にては病蟲殊にトップ・ボーラー及びピリラ加ふるに降霜の被害を受けた。隨つて產糖額は平年以下と豫想される。ビハール及びオリッサ州の天候狀態は概ね良好であつたので、諸報告によれば本季產糖は平年の九二%と豫想される。過去十年の平均は九五%である。ベンゴール州にても大體良好で、同地產糖は良好と豫想される。棗椰子汁其他のものより製する含蜜グール糖の產額は昨年と同額の一〇〇、〇〇〇噸と豫想される。マドラス州の產糖は平年作以下と豫想される。卽ち其の天候狀態より察するに本年度は、昨年度が平年の九五%なりしに對し九一%程度であらう。ボムベイ州に於ける蔗園面積の增大は主として、デッカン運河沿岸の製糖工場が其甘蔗栽培耕地を擴張したるによる。グヂラートにては大體良好なる成績と報ぜられてゐる。デッカンにては甘蔗の發育は良好に進んだが、一月半の永きにわたる嚴しい寒氣の爲に收穫は甚大な被害を受けた。カルナタークにては西部方面は良好なりしも、東部にては發育期半ばの永きにわたる旱天に妨げられたので、十月及び十一月第一週の降雨によりかなり持直しはしたが、產糖は平年に遠く及ばないであらう。コンカンは大體良好であつた。シンドにては一月第三週の降霜で一部の被害を見た。西北國境州、主としてペシャワール區にて、本年も亦作付面積の減少を見た。グール糖の安値に因るもの

で、平年の九五%の產糖と豫想される。アッサムにてはラキムプール及びサデイヤ國境區を除いて、洪水、旱魃、病蟲等の被害があつて、狀態は良好とは言へなかつた。中央州では天候狀態は大體良好であつた。尤も二三の區では季節早々大量の降雨に見舞はれ多少の被害を被つた。

(三) 甘蔗推定收穫高

第四表は一九二五—二六年度乃至一九三四—三五年度に於ける甘蔗植付面積、粗糖(グール糖)計算產糖總額及び甘蔗推定收穫高を示す。數量推定の根據については一九三二—三三年度糖業概觀を見られたい。(一九三四年七月五日付「インディアン・トレイド・ヂャーナル」附錄)

第四表　甘蔗植付面積、粗糖(グール糖)計算產糖總額及び甘蔗推定收穫高

	甘蔗植付面積	グール糖計算產糖總額	甘蔗推定收穫高
一九二五—二六年度	二、八〇六、〇〇〇エーカー	三、一四三、〇〇〇噸	三四、三八二、〇〇〇噸
一九二六—二七年度	三、〇七五、〇〇〇	三、四二〇、〇〇〇	三七、三九二、〇〇〇
一九二七—二八年度	三、一〇五、〇〇〇	三、三七六、〇〇〇	三六、八四二、〇〇〇
一九二八—二九年度	二、六五〇、〇〇〇	二、八二七、〇〇〇	三〇、六六九、〇〇〇
一九二九—三〇年度	二、六七七、〇〇〇	二、八八五、〇〇〇	三〇、九六一、〇〇〇
一九三〇—三一年度	二、九〇二、〇〇〇	三、三五九、〇〇〇	三五、七八〇、〇〇〇
一九三一—三二年度	三、〇七六、〇〇〇	四、一一六、〇〇〇	四三、三一六、〇〇〇
一九三二—三三年度	三、四三五、〇〇〇	四、八五九、〇〇〇	五一、一二九、〇〇〇
一九三三—三四年度	三、四三三、〇〇〇	五、〇五五、〇〇〇	五二、四五五、〇〇〇
一九三四—三五年度	三、五九六、〇〇〇	五、二六八、〇〇〇	五四、三四六、〇〇〇

右の表により昨年度に比し、作付面積に於いて四・七%產額に於いて四・二%、甘蔗推定收穫高にて三・六%の增加を見たことが明である。

右の表により昨年度に比し、作付面積に於いて四・七%産額に於いて四・二%、甘蔗推定收穫高にて三・六%の増加を見たことが明である。

(四) 甘蔗改良品種

諸改良種の植付は年々増加してゐる。第五表は印度諸州(ビルマを含む)に於ける一九三四—三五年度改良品種植付面積を前年度比較にて示す。

第五表　印度各州別甘蔗改良品種植付面積

	一九三四—三五年度	一九三三—三四年度
聯合州	一、五六〇、〇〇〇(エーカー)	一、四四五、四七八(エーカー)
パンヂヤブ	二〇一、八七三	一七三、六六一
ビハール及びオリツサ	四〇〇、六〇〇	三六一、三〇〇
ベンゴール	一三〇、八三八	一七五、四一五
マドラス	六一、六〇五	五八、七四九
ボムベイ	一六、三七三	九、八七二
西北國境州	三八、一四四	四三、〇〇〇
アツサム	八、一八六	九、〇八九
中央州	一五、四九〇	一四、五〇三
ビルマ	一二、六一〇	四、一九〇
合計	二、四四五、七一九	二、二九五、二五七

印度諸州に於ける改良品種植付面積の全面積に對する比率が昨年度の六二%に比し、本年度は六七%に達したことが分る。

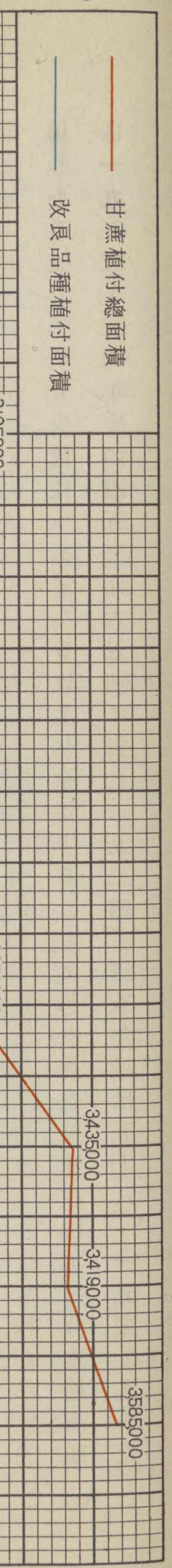
圖表Bは全印度の甘蔗植付面積と改良品種植付面積とを一九二四—二五年度乃至一九三四—三五年度の過去十二ヶ年間にわたり示す。

三　製糖

新式製糖法に據る製糖工場は、前年度の五七に對し、一九三三—三四年度は一一二作業した。グール糖より精製をなす工場は前年度の二七に對し、一九三四年度は一六であつた。一九三四年度はグール糖の價格が前年度より上り、他方分蜜糖の價格は下つたので、グール糖精製事業は不利であつた。

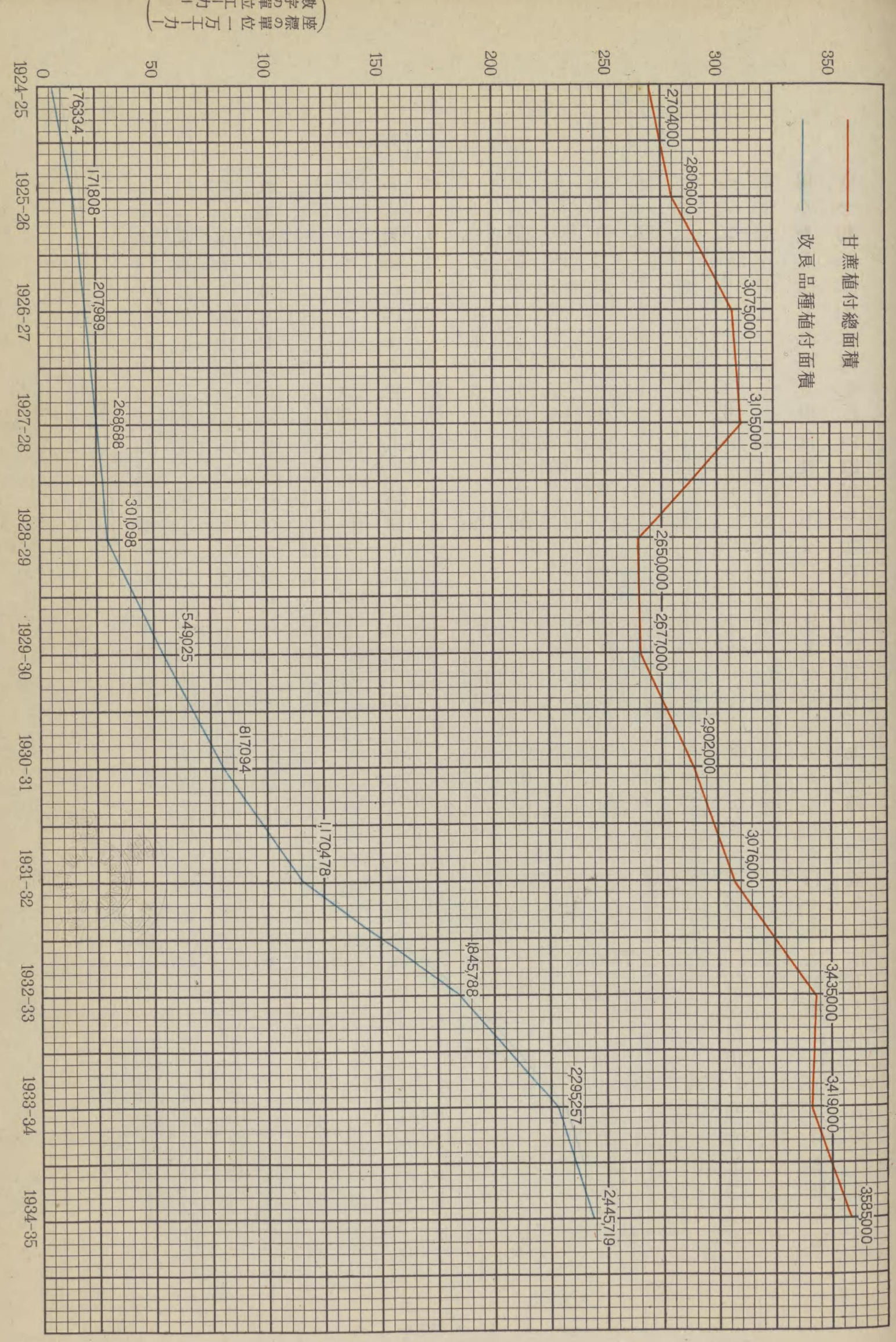
新式製糖法による分蜜糖の產額は一九三二—三三年度の二九〇、一七七噸に對し一九三三—三四年度は四五三、九六五噸に達したが、グール糖よりの精製高は一九三三年度の八〇、一〇六噸が一九三四年度は六一、〇九四噸に減つた。かくて印度に於ける一九三三—三四年度の分蜜糖總生產額は五一五、〇五九噸に上つた。一九三二—三三年度は三七〇、二八三噸であつた。

一九三四—三五年度には新しく一九工場が作業を開始したので、全印度の製糖工場は一四二となつた。此の中一三〇工場が一九三四—三五年度に製糖作業をせる旨の報告を提出した。六工場は作業開始に間に合はず、三工場は報告を遲り、二工場は經營困難の爲作業を休止し、一工場は學生實習用の小工場で、產額も少量且つ不定なる故之を除外することにした。新式製糖法による分蜜糖產額は一九三三—三四年度の四五三、九六五噸に對し、一九三四—三五年度は五七八、一一五噸であつた。



圖表B　印度

一九三四—三五年度には新しく一九工場が作業を開始したので、全印度の製糖工場は一四二となつた。此の中一三〇工場が一九三四—三五年度に製糖作業をせる旨の報告を提出した。六工場は作業開始に間に合はず、三工場は報告を遅り、二工場は經營困難の爲作業を休止し、一工場は學生實習用の小工場で、産額も少量且つ不定なる故之を除外することにした。新式製糖法による分蜜糖産額は一九三三—三四年度の四五三、九六五噸に對し、一九三四—三五年度は五、七八、一一五噸であつた。



圖表B

印度に於ける甘蔗植付總面積及び改良品種植付面積（一九二四—二五年度乃至一九三四—三五年度）

隨つて前期に比しての本期の産糖増加は一二四、一五〇噸である。

印度糖業が其の技術的方面でなしつゝある進歩は、前年に比較して一九三四—三五年度印度各州の新式工場に於ける平均歩留の向上を見れば明である。第六表は之を示す。

隨つて前期に比しての本期の產糖增加は一二四、一五〇噸である。印度糖業が其の技術的方面でなしつゝある進歩は、前年に比較して一九三四—三五年度印度各州の新式工場に於ける平均歩留の向上を見れば明である。第六表は之を示す。

第六表　一九三四—三五年度新式工場製糖歩留(%)

	一九三四—三五年度			一九三三—三四年度		
	最高	最低	平均	最高	最低	平均
聯合州	一〇・四四	五・四五	八・五六	一〇・二七	六・六〇	九・〇八
ビハール及びオリッサ	九・七四	六・九三	八・七九	一〇・〇〇	五・五〇	八・三二
其他諸州	一一・一〇	五・〇〇	八・七七	一〇・九八	四・三八	八・七五
全印度	一一・一〇	五・〇〇	八・六六	一〇・九八	四・三八	八・八〇

今期最高歩留は前期の一〇・九八%に對し、一一・一〇%であつた。全印度の平均歩留は、一九三三—三四年度の八・八〇に對し一九三四—三五年度は八・六六と僅かながら減少した。ビハール及びオリッサの諸工場の平均歩留は、前期は地震の爲に八・三二に低下したが、本年は八・七九と恢復した。之は同州の數年來の平均歩留と大差ない。聯合州にては、西部地方の甘蔗收穫に被害を見た爲、一九三三—三四年度の九・〇八から一九三四—三五年度には八・五六%に低下した。然し今期の最高歩留が一一%を突破したことは特記に値する。前期と同樣一〇%以上の歩留を示したものが全印度にて九工場の多きに上つた。一三〇工場中四五工場が九%以上を示し八%以上のものは九二工場に上つた。

南部印度殊にボムベイにては多數の工場が一〇%以上の歩留であつた。聯合州の東部諸區の諸工場は、甘蔗の出來が大體平年作であつたので、良好な實績をあげた。ビハール及びオリッサの諸工場の實績も大體良好であつた。

圖表Cは土産グール糖を含む全産糖額及び新式製糖法並びにグール糖精製法による分蜜糖の産額を、一九二〇—二一年度乃至一九三四—三五年度にわたつて示す。

第七表は新式製糖法並びにグール糖精製法による分蜜糖産額並びに同工場數を示す。

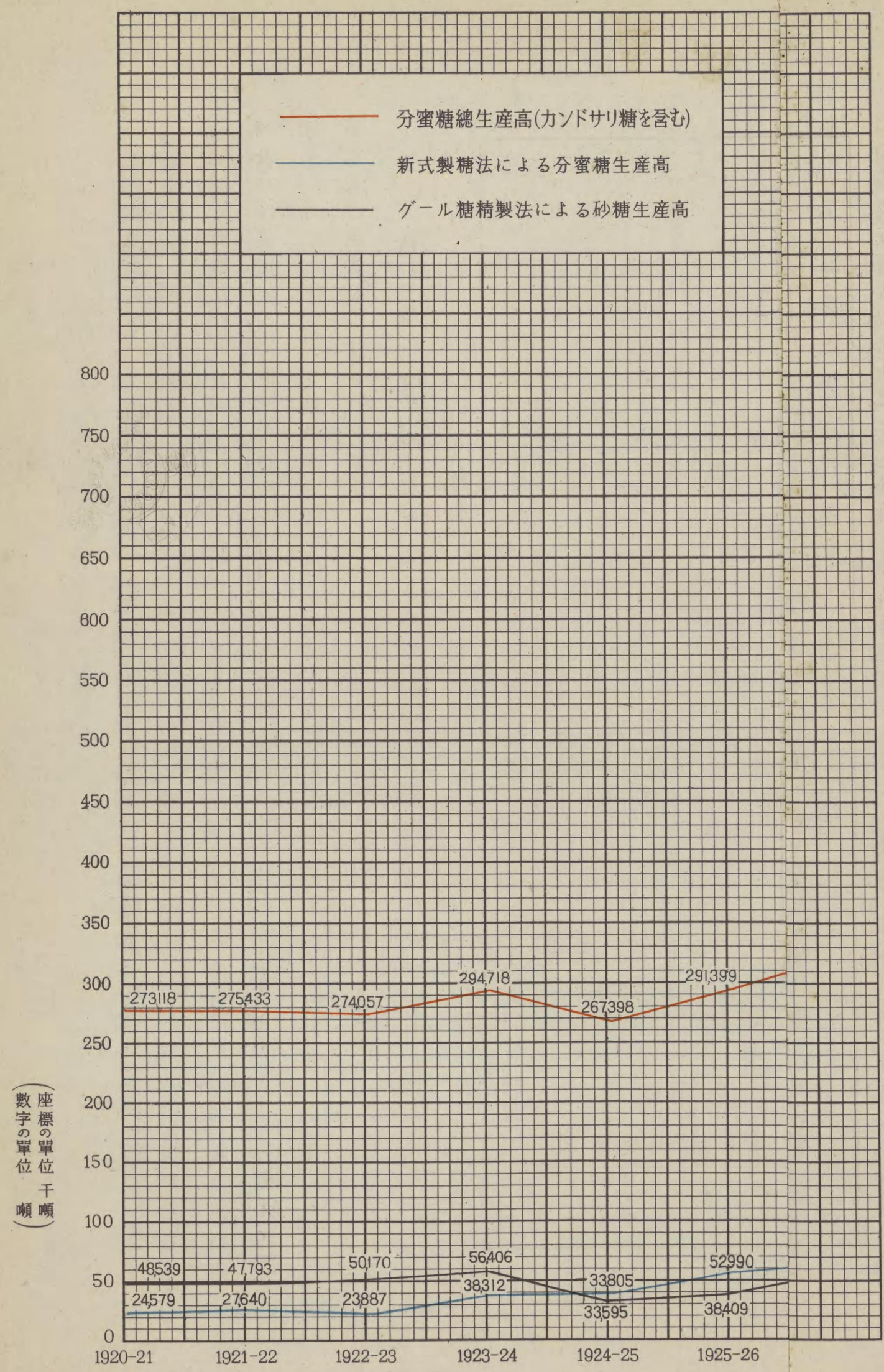
第七表　新式製糖法及びグール糖精製法による分蜜糖生産高及び同工場數

	新式製糖工場數	同分蜜糖生産高	グール糖精製工場數	同生産高
一九二六—二七年度	二五	六二、九四一噸	二二	五八、〇八五噸
一九二七—二八年度	二六	六七、六八四	一九	五二、〇五五
一九二八—二九年度	二四	六八、〇五〇	一四	三一、〇三八
一九二九—三〇年度	二七	八九、七六八	一一	二一、一五〇
一九三〇—三一年度	二九	一一九、八五九	一〇	三一、七九一
一九三一—三二年度	三二	一五八、五八一	一七	六九、五三九
一九三二—三三年度	五七	二九〇、一七七	二七	八〇、一〇六
一九三三—三四年度	一一二	四五三、九六五	一六	六一、〇九四
一九三四—三五年度	一三〇	五七八、一一五	一二	四〇、〇〇〇

右の表より新式製糖法による砂糖生産高及び同法に據れる製糖工場數が逐年增加してゐること

圖表C　印度分蜜糖生産高（一九二〇—二一年度乃至一九三四—三五年度）

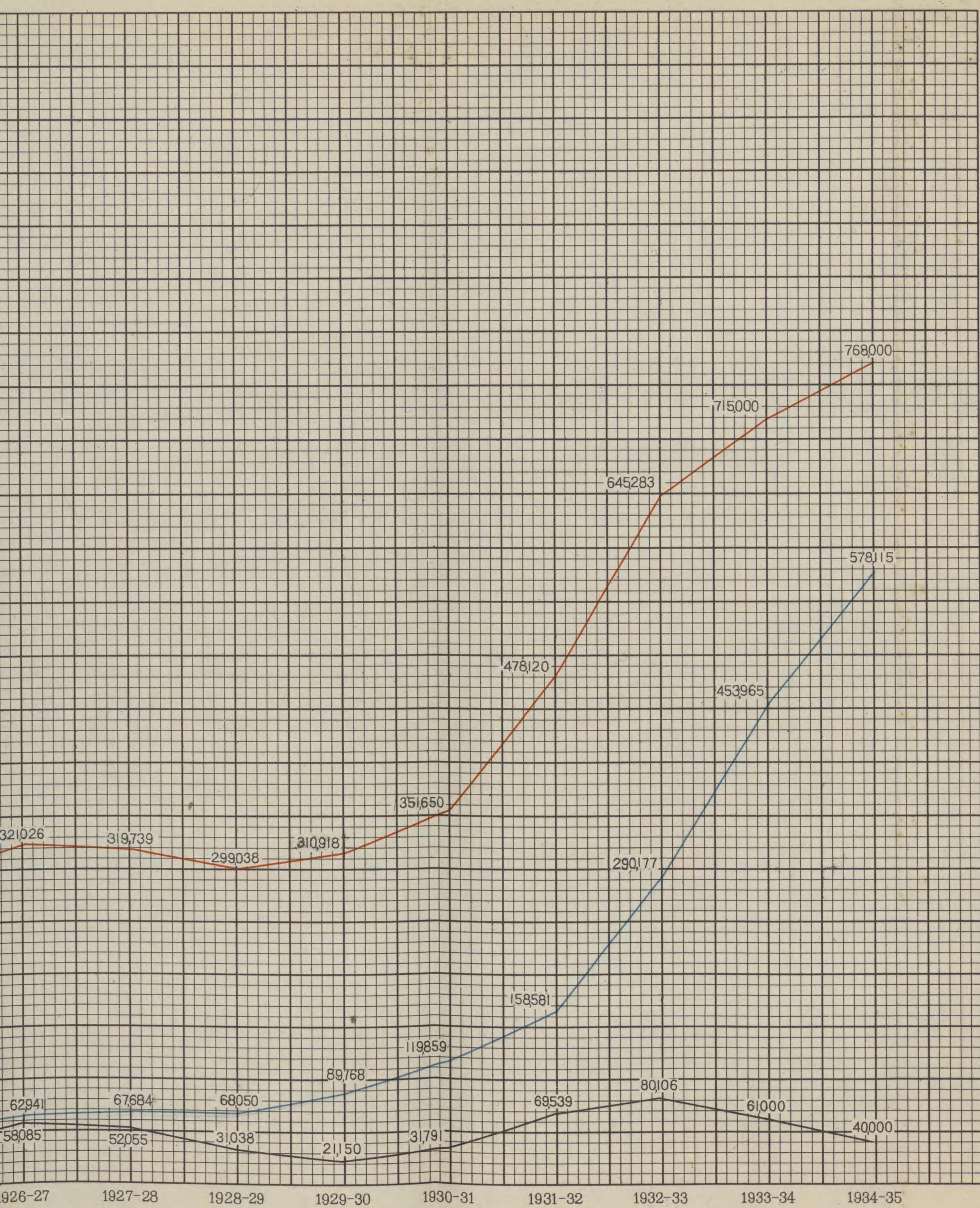
圖表C　印度分蜜糖生産高(一九二〇—二一年度乃至一九三四—三五年度)



右の表より新式製糖法による砂糖生産高及び同法に據れる製糖工場數が逐年增加してゐること

一九三〇—三一年度	二九	一一九、八五九	三一、七九一
一九三一—三二年度	三二	一五八、五八一	六九、五三九
一九三二—三三年度	五七	二九〇、一七七	八〇、一〇六
一九三三—三四年度	一一二	四五三、九六五	六一、〇九四
一九三四—三五年度	一三〇	五七八、一一五	四〇、〇〇〇

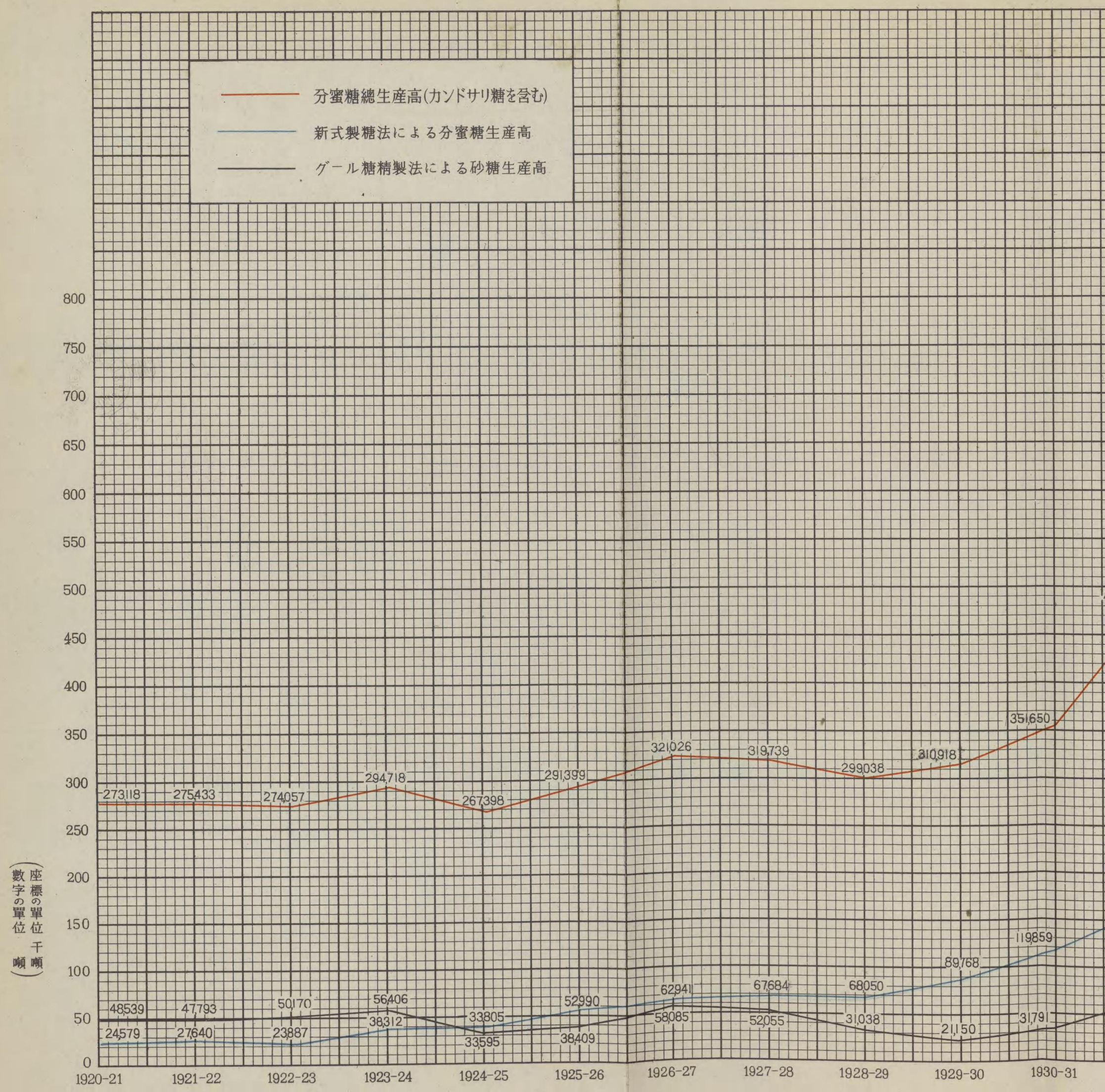
圖表C　印度分蜜糖生産高(一九二〇—二一年度乃至一九三四—三五年度)



一九二八—二九年度	二四	六八、〇五〇	一四
一九二九—三〇年度	二七	八九、七六八	一一
一九三〇—三一年度	二九	一一九、八五九	一〇
一九三一—三二年度	三二	一五八、五八一	一七
一九三二—三三年度	五七	二九〇、一七七	二七
一九三三—三四年度	一一二	四五三、九六五	一六
一九三四—三五年度	一三〇	五七八、一一五	一二

三一、〇三八	二一、一五〇	三一、七九一
六九、五三九	八〇、一〇六	六一、〇九四
四〇、〇〇〇		

右の表より新式製糖法による砂糖生産高及び同法に據れる製糖工場數が逐年增加してゐること


分蜜糖總生産高(カンドサリ糖を含む)
新式製糖法による分蜜糖生産高
グール糖精製法による砂糖生産高
座標の單位 千噸
數字の單位 噸
800
750
700
650
600
550
500
450
400
350
300
250
200
150
100
50
0
273,118
275,433
274,057
294,718
267,398
291,399
321,026
319,739
299,038
310,918
351,650
48,539
47,793
50,170
56,406
33,805
52,990
62,941
67,684
68,050
89,768
119,859
24,579
27,640
23,887
38,312
33,595
38,409
58,085
52,055
31,038
21,150
31,791
1920-21
1921-22
1922-23
1923-24
1924-25
1925-26
1926-27
1927-28
1928-29
1929-30
1930-31

を知る。前者の一九三四—三五年度に於ける増加が前年度に比較して約三%なるに對し、後者の其は約一六%である。

を知る。前者の一九三四—三五年度に於ける増加が前年度に比較して約三%なるに對し、後者の其は約一六%である。

舊式の方法による白糖の產額は、一九三三—三四年度の二〇〇、〇〇〇噸に對し一九三四—三五年度には一五〇、〇〇〇噸と豫想される。（註、所謂カンドサリ糖である。）

印度に於ける製糖工場に關する左の二表を本輯末尾に掲げておく。

A表　一九三四—三五年度印度に於ける新式製糖工場並びに精糖工場一覽表

B表　一九三五—三六年度新設製糖工場

四　印度に於ける農事及び製糖技術に關する研究の概觀

（一）コイムバトール所在、帝國甘蔗研究所

(a)亞熱帶適種及び大莖種甘蔗の育成

本研究所は優良甘蔗品種の育成のみならず、一般的な甘蔗栽培技術に關する研究をも重ねてゐる。出穗の時期調節研究は遂に、異なる季節及び異なる土壤地帶に植付けたる甘蔗も其の出穗の時期を同時になすに至り、從來不可能とせられてゐた交配を可能とする迄に至つた。Co. 290種を六時間宛日光に照射したるに通常のものよりも二十六日早く開花した。然し其の受粉したる種子は僅か一%より發芽しなかつた。更に出穗の時期調節の目的を以つて、側芽刈込を務めて行つてみた。卽ち

POJ 2878 について、之を再度蔗頭部刈込を行つたところ、通常のものよりも開花が十一日遅かつた。これが爲 Co. 290 との交配を大規模にわたつて試みることが可能となつた。種子の發芽は良好であつた。POJ 2725 と S. spontaneum の各種との交配種のあるものは、其發育能力良好の故に、新種採種用として極めて有望視せられてゐる。之等の交配種は初年度は良好な花粉少量であつたが、今や相當多量となり種子採取も自由となつて來た。更にコイムバトール種の堅牢な中莖種が新種採取用としてより多く用ひられてゐる。卽ち Co. 205, Co. 243, Co. 244, Co. 285 及び Co. 290 の如きである。又 Vel'ai × Co. 243, POJ 2725 × Co. 243, POJ 2778 × Co. 290 の如き新交配種が大規模に創造された。優良實生を採取せらるべく豫想せられてゐる他の交配種に Co. 419 × Co. 244 及び Co. 411 × Co. 243 の如きがある。

一九三三—三四年度に於いて右の外左の如き研究を進めた。

一、出穗せる甘蔗の隔離　二、出穗が蔗汁の質に及ぼす影響　三、大莖種實生の特質　四、甘蔗の形態學的及び細胞學的研究　四、花粉の研究等である。

發芽試驗の結果は、發芽せる三本の苗の中中央のものが最も太く且つ良好な甘蔗となるとの前回の發見を確證した。大莖種甘蔗の種子發芽研究も續けた。此の研究は同一親株を引續いて授粉用に用ひた折の種子發芽研究の見地より、Vel ai 種と其の二つの實生卽ち Co. 400 及び Co. 403 との比較研究より成る。雄親株として用ひたのは EK. 28 及び Co. 205 であつた。實驗の結果は Co. 400 を雌親株として用ひた場合最も多量の發芽を見るを得た。

(b) 甘蔗とさたうよしの交配種

甘蔗とさたうよしとの交配の結果、含糖率と純粹度の高さを特徴とする二三良品種を選別するを得た。コイムバトール種との交配は POJ 2725 との交配より大體に於いて良種を得た。卽ち POJ 27

發芽試驗の結果は、發芽せる三本の苗の中中央のものが最も太く且つ良好な甘蔗となるとの前回の發見を確證した。大莖種甘蔗の種子發芽研究も續けた。此の研究は同一親株を引續いて授粉用に用ひた折の種子發芽研究の見地より、Velai 種と其の二つの實生卽ち Co. 400 及び Co. 403 との比較研究より成る。雄親株として用ひたのは EK. 28 及び Co. 205 であつた。實驗の結果は Co. 400 を雌親株として用ひた場合最も多量の發芽を見るを得た。

(b) 甘蔗とさたうよしの交配種

甘蔗とさたうよしとの交配の結果、含糖率と純粹度の高きを特徴とする二三良品種を選別するを得た。コイムバトール種との交配は POJ 2725 との交配より大體に於いて良種を得た。卽ち POJ 2725 及び Sorghum Durra (Stapf) との交配種 F_1 とさたうよし雄との交配により相當興味ある系統を得た。Co. 356 は一二の北印度研究所で有望なりとの報告を出してゐる。之等の交配種のあるものは、當地の如き所にては植付後六七ヶ月にては製糖に適しないが、亞熱帶地方の蔗園に栽培すれば、成熟の最も早いものとなるであらうとの報告がある。熱帶部にて之等の交配種に關し最も大規模な實驗を行ふたのは、マドラス州に於いてゞあつた。一ヶ年間の其の實驗の結果によれば若干のものは植付後二〇〇乃至二二〇日に於いて純度八五%以上に達し、其後一〇〇日を經た時は更に高まつて居た。最高の登熟度に達した折のさたうよし交配種は、他のコイムバトール種の交配種より含糖率が高いとの報告がある。

(c) 印度亞熱帶地方及び熱帶地方並びに諸外國に於けるコイムバトール種甘蔗の成績

Co. 223 がヒマラヤ地方カングラ區及び海拔四、〇〇〇呎以上の高地に於いて次第に栽培せられつつあると報ぜられてゐる。新育成種が西部及び南部地方の蔗園にて關心を以つて迎へられてゐる。卽ち Co. 361 が西北國境地域にて、Co. 408 がカルナル(パンヂャブ)にて、Co. 413 がシャーヂャムプール(聯合州)にて、Co. 361 及び Co. 407 がジョラート(アッサム)にて、更に Co. 360 及び Co. 402 がパデガオン(ボンベイ州)に於いての如きである。Co. 213, Co. 281 及び Co. 290 が廣く一般に栽培されてゐる。Co. 243 及び Co. 313 がマドラス州アナカパル蔗園にて新種として有望視せられ又 Co. 290 が全く異なる土壤と灌漑狀態たるボムベイ州の諸處で既に定評を得てゐる。Co. 281 及び Co. 290 並びに之より新に育

成されたる Co. 213 がアルゼンチン、ルイジャナ、南阿聯邦及び濠州等の諸外國で好評を得てゐる。右の中前の二種は旱魃及び病害に強き品種の原種として、かの有名なる Uba 種に優るものとなるであらう。

(d) カルナル分所

カルナル分所に於ける各種の方法による實生育成及び之が四季にわたる栽培に關する二ヶ年にわたる研究の結果、該分所に課せられたる研究事項の效果的達成に關して幾多の指針を得ることを得た。週期的芽條及び根に關する研究の成果は、一九三三—三四年度の夏季が本陽氣でなかつた爲目醒しいものではなかつた。一九三三年八月に始められ、一九三四年二月迄續けられた、蔗汁糖度測定の爲の定期的なハンド・レフラクトメーター檢査は、各種甘蔗の登熟期のみならず、各種甘蔗が蔗汁の糖分を轉化することなく保持し得る期間に關しても、有利なる資料を得るを得た。後者の問題は、製產物がグール糖又はラッブ糖なるか或は白糖となるかと言ふ甘蔗耕作に關する重要問題である。品種陶汰の研究も同分所で繼續されてゐる。

(二) プサ所在、帝國農事試驗所

甘蔗の品種、肥培及び栽培試驗

該所に於ける甘蔗品種試驗は一九三三—三四年度も繼續された。一九三一年乃至一九三四年にわたりコイムバトールより移入したる數種の甘蔗が苗圃にて繁殖されて居る。Co. 213 及び Co. 210 が今尙ほ製糖業者並びに蔗作者双方にとつて最も難のない甘蔗とされてゐる。Co. 299 が Co. 214 及び Co. 313 と對比して製糖試驗に供された。模範的早熟品種と考へられてゐた Co. 214 は產糖量が貧弱であつた。農事部で行はれた試驗によつて、Co. 299 が早熟であり、その噸當り產糖高及び化學的分析

である。品種陶汰の研究も同分所で繼續されてゐる。

(二) プサ所在帝國農事試驗所

甘蔗の品種、肥培及び栽培試驗

該所に於ける甘蔗品種試驗は一九三三—三四年度も繼續された。一九三一年乃至一九三四年にわたりコイムバトールより移入したる數種の甘蔗が苗圃にて繁殖されて居る。Co. 213及びCo. 210が今尚ほ製糖業者並びに蔗作者双方にとつて最も難のない甘蔗とされてゐる。Co. 299がCo. 214及びCo. 313と對比して製糖試驗に供された。模範的早熟品種と考へられてゐたCo. 214は產糖量が貧弱であつた。農事部で行はれた試驗によつて、Co. 299が早熟であり、その噸當り產糖高及び化學的分析に於いてCo. 214に優るものとの結果が出た。尚ほ同試驗により原料費の低下が、Co. 214をCo. 299に代へることによつて得られることが判明した。Co. 210, Co. 213及びCo. 331の噸當り產糖試驗の結果、Co. 331が最も產糖多く、Co. 210とCo. 213との間には大差ないと言ふことになつた。

Co. 213に關する油粕及び過燐酸肥料による肥培試驗を夫々の施肥につき六回繰返した。肥料は植付時に之を施し、油粕中の無水燐酸の量は主たる肥料の過燐酸の施肥量から差引いた。其の結果產糖高は無水燐酸五〇封度＋窒素四〇封度、無水燐酸七五封度＋窒素四〇封度及び無水燐酸一〇〇封度＋窒素四〇封度間に殆んど差異なく、且つ無肥料よりも總べて產糖多量であつた。Co. 210に關する肥培及び輪作試驗も行はれた。此の實驗の目的は、甘蔗——休閑——甘蔗と言ふ甘蔗の短期輪作に對し、土壤を最も良好な狀態に保持する點にあつた。各實驗に關しては同條件下に十回實驗を行ふた。實驗用圃は一九三一—三二年度は甘蔗が植えられ、毎エーカーにつき各々次の如き實驗をなした。(一)秋期に休閑、ついでモンスーン末期に堆肥一四噸を施用。(二)秋期に休閑ついで植付時に完全鑛物質肥料(硫安により窒素四〇封度、過燐酸肥料による無水燐酸五〇封度、硫酸加里により酸化加里四〇封度)を施用。(三)秋期にSann麻を蒔き、之を八週間後過燐酸肥料による無水燐酸五〇封度と共に鋤込み、植付時に油粕で窒素五〇封度を施した。(四)秋期にSann麻を蒔き八週日後に鋤込み、植付時に完全鑛物質肥料を(二)と同量を施す。(五)秋期休閑、ついで植付時に標準肥料(油粕により窒素四〇封度、過燐酸肥料により無水燐酸五〇封度)を施す。右の實驗の結果、(一)號が最高の收穫を示し、(三)、(二)

號之につぎ、(四)、(五)號は殆んど(二)號と同結果であつた

Co. 210 について、有機質及び無機質肥料の實驗が六通りに分れて行はれた。各エーカーにつき異なる肥料の施用を卽ち(一)無肥料。(二)モンスーン季末に一〇噸の堆肥、(三)同じく二〇噸の堆肥、(四)秋期に綠肥(Sann 麻)及び植付時に完全鑛物質肥料(硫安により窒素四〇封度、硫酸加里により酸化加里四〇封度、過燐酸により無水燐酸五〇封度)を施用。(五)、(三)號と同じ完全鑛物質肥料を植付時に、(六)秋期に綠肥(Sann 麻)並びに過燐酸肥料による無水燐酸五〇封度の施肥。此の結果は、エーカー當り二〇噸の堆肥施肥が最高の成績を擧げた。此の實驗の結果は他の地域に於ける同樣の實驗と一致した。此等兩實驗によつて見れば、堆肥(一エーカー當り一四噸の割合)が甘蔗肥料として最適なることを示してゐる。Co. 210, Co. 303, Co. 313 及び Co. 331 についても同樣に堆肥及び泥滓の產糖高に及ぼす結果に關する豫備實驗が行はれた。

Co. 210 について其の植付間隔に關する實驗及び倒伏し易き甘蔗について之を繫ぎ合す實驗も進められた。又 Co. 214, Co. 299, Co. 281 及び Co. 313 について、早熟品種に關する種苗調整の實驗を續けた。豺及び野豚の蔗園被害は前年度よりも減じた。發芽研究を、調製せるものと之をせざるものとにつき行ふたが、發芽率は殆んどすべての品種について調製せられた種苗の方が良好であつた。唯 Co. 299 のみは調製せざる狀態のものゝ方が良好であつた。(註、調製とは甘蔗刈取後の調製のことである)

(三) 聯合州

(a) 甘蔗栽培、品種及び肥培研究

聯合州に於ける一九三三—三四年度改良種植付面積は前年度の七三%に對し八一%に上つた。栽培試驗によれば、土壤輕質にして豐沃ならば四呎乃至三·五呎の畦間隔に植付け、之に土盛りをする

められた。又 Co. 214, Co. 299, Co. 281 及び Co. 313 について早熟品種に關する種苗調整の實驗を續けた。豺及び野豚の蔗園被害は前年度よりも減じた。發芽研究を、調製せるものと之をせざるものとにつき行ふたが、發芽率は殆んどすべての品種について調製せられた種苗の方が良好であつた。唯 Co. 299 のみは調製せざる狀態のものゝ方が良好であつた。(註、調製とは甘蔗刈取後の調製のことである)

(三) 聯合州

(a) 甘蔗栽培、品種及び肥培研究

聯合州に於ける一九三三—三四年度改良種植付面積は前年度の七三%に對し八一%に上つた。栽培試驗によれば、土壤輕質にして豐沃ならば四呎乃至三·五呎の畦間隔に植付け、之に土盛りをすることが最良の結果を示し、土壤重粘にして、餘り肥沃ならざる時は畦間隔三·五呎乃至三呎に植付、培土をなし、瘠せた土壤の際は前と同じ間隔にし之には培土を行はぬやうにするのがよいと云ふ結果を得た。品種試驗にては、Co. 313 が最高の產糖高を示し、新種 Co. 341 及び Co. 350 が之に次いだ。然し Co. 350 はモザイク病にかゝり易い。產糖高の點から言へば、Co. 313 はその名聲を保つを得た。之に次ぐのは Co. 350 であつて、Co. 347 及び Co. 349 は Co. 341 より優秀だと言はれてゐる。最近 Co 300 及び Co. 312 が東部、ロヒルカンド及び西部地方で次第に栽培せられてゐるとの報告があるが、各地で最も多く栽培せられて居る品種は、Co. 213, Co. 244 及び Co. 290 である。

肥料試驗に關しては Sann 麻の綠肥施用により收穫を四〇%以上增加するを得たが、牛糞及び硫安によつても之を增加し得るであらう。然し油粕は良好でないであらうとの報告がある。一エーカーに付、窒素一二〇封度を供給する量の油粕の施用は等量の油粕及び硫安の混合施肥より良好な成績を擧げた。勿論何れもが堆肥のみよりは良好である。綠肥を施し得ず、且つ油粕が安價且つ容易に入手し得る場合には之を單獨にて施すべく、之に代るものとしては、牛糞と更に時日をへて硫安を施すのがよい。効果の早い化學肥料は之を植付前、發芽後又は耕耘の後施す時最良の効果を見る。之等の時期の間には殆んど効果上の差等はないが化學肥料を之よりも遲れて施すことは効果が少い。何んとなれば植物は成育の初期に無機質分を最も必要とし、之を吸收するもので、此の期を過ぎると之を必要とせぬ樣になるからである。甘蔗の成熟に及ぼす有機質分及び窒素の効果に關する

實驗によれば、土壤が肥沃ならば、之に比例して成熟は遲れるが、產糖高は增加する。肥料として糖蜜を利用する實驗が農場にて大規模に本年も續けられた。一エーカー當り糖蜜の施肥を六噸及び十二噸の割合で行ひ、其甘蔗栽培上の効果を同量の窒素、無水燐酸、加里等の人造肥料による栽培結果と比較した。植付後に糖蜜を施肥するのは產糖高を減少するが、若し植付前に之を施す時は副產物たる糖蜜も肥料として有効に用ひ得るとの結果を得た。種々の質の土壤について其の窒素含有量及び肥沃度に及ぼす糖蜜の影響についても、實驗室內で研究が行はれた。各二回の春期及び秋期收穫についで休閑した後に、之を分析したる所によると糖蜜を施した場合には、窒素の一定の增加を見るを得た。

(b) 甘蔗のモザイク病

標準甘蔗 Co. 213 に於ける、漫性的モザイク病が其の產糖高、蔗汁及び含糖分に及ぼす影響が研究された。一九三三—三四年度の實驗にては之に患されざる甘蔗は、患されたるものに比し、產糖高にて一六%、蔗汁量にて一・八%多量であつたが、含糖率の差は僅か〇・〇二%で問題にならぬ程度であつた。

(四) ビハール及びオリツサ

(a) 甘蔗の品種、肥培研究

一九三三—三四年度、セパヤ蔗園にて百種のコイムバトール種苗が試驗に供せられた。四十種は除かれ、殘りが再編成されて、更に研究が進められてゐる。早生種 Co. 299 が配布用に增殖された。Co. 331 は Co. 210 又は Co. 213 よりも著しく產糖高が多量であつた。之等は潤澤な降雨に惠まれた年には極めて良好な收穫を見ると報ぜられてゐる。南部ビハールの低地排水不良の土地に栽培されてゐる

一六%、蔗汁量にて一・八%多量であつたが、含糖率の差は僅か〇・〇二%で問題にならぬ程度であつた。

(四) ビハール及びオリツサ

(a) 甘蔗の品種、肥培研究

一九三三—三四年度、セパヤ蔗園にて百種のコイムバトール種苗が試驗に供せられた。四十種は除かれ、殘りが再編成されて、更に研究が進められてゐる。早生種 Co. 299 が配布用に増殖された。Co. 331 は Co. 210 又は Co. 213 よりも著しく產糖高が多量であつた。之等は潤澤な降雨に惠まれた年には極めて良好な收穫を見ると報ぜられてゐる。南部ビハールの低地排水不良の土地に栽培されてゐる Co. 285 は引續き相當の成績を示してゐる。又同地方の灌漑難の土地にあつても同種は良種だとの報告がある。卽ちガヤ蔗園にて灌漑不良の狀態で一エーカー當り五〇〇モウンドの產糖高を示した。サブール蔗園では Co. 312, Co. 342, Co. 346 及び Co. 300 が優秀だと言はれてゐる。甘蔗肥培試驗は殆んど全部の官有蔗園で行はれた。北部ビハールでは窒素四〇封度に無水燐酸五〇封度の混合肥料が最良と言はれ、又チョタ・ナグプールの官有蔗園では窒素八〇封度の施肥のみで良好の成績をあげた。南部ビハールの重粘質な土壤では、一エーカー當り六〇封度以上の窒素を施すことは全く不經濟なことであると言ふてゐる。

(b) 開放鍋法(Open-pan system)による製糖の實驗

一九三二—三三年度に能力一噸の甘蔗壓碎機が見事に設計せられ、ついで製作された。又設計濟みなりし小規模工場計畫に若干の修正を見た。かくして新實驗用工場が建設され、試驗用に供されてゐる。該工場は Co. 213 の如き外皮の堅い品種をも毎時十五モウンドを壓碎する能力を有するが、之を運轉するには八馬力以下で足りる。パトナに發達してゐるカンドサリ糖製造 Single-pan の方法について研究が進められてゐる。

(五) パンヂヤブ

(a) 甘蔗品種及び栽培研究

パンヂャブに於いて、コイムバトール種はデシ種に比し、產糖高にて五〇%優ると推定されてゐる左記のコイムバトール種がパンヂャブ農務廳で推稱されてゐる。卽ち Co. 285, Co. 233, Co. 213, Co. 290, Co. 281 及び Co. 205 である。農務廳所轄農園で多數の品種試驗が行はれた。常時試驗は(一)早熟品種(二)中間品種(三)晩熟種(四)グール糖製造にのみ適する品種の四研究にわたつてゐる。六種の早熟種が試驗に供された。實驗の結果早熟種と豫想せられた Katha 種が事實は Co. 281 及び Co. 313 より登熟晩く且つ產糖高も貧弱で、Co. 313 が最良であつた。中間品種五種の中、標準品種 Co. 213 が他の三者より良好であつた。Co. 347 も同樣に良好であつて、且つ Co. 213 より登熟が早かつた。四種の晩熟種では、Co. 300 が最良で、產糖高も極めて多かつた。ついで Co. 312 で、之は優秀な品種と報ぜられてゐる。之より良質の結晶グール糖を製するを得たが、蔗糖分も高かつた。此品種についての唯一の缺點は、倒伏する傾きのあることであつて、殊に肥沃な土地で著しい。溝を掘つてそこに蔗苗を植えるか或は平面に之を植えるかについての實驗の結果は、溝に殖える方が優つてゐた。パンヂャブにて一般に栽培されてゐる細莖及び中莖の甘蔗については溝と溝との最良の間隔は二呎であつた。甘蔗株出に關しては、Co. 213 は株出甘蔗としては良好ではなかつたが、Co. 223, Co. 205 及び Co. 285 はよく數年にわたり株出を繼續するを得た。グルダスプール農事支所に於ける九月植付と三月植付との比較試驗の結果は九月植付のものの方が產糖高は七五%多かつた。將來の實驗がこの結果を更に確證し、九月植付の經濟性が立證されるならば九月植付が確信を以つて實行に移されることにならう。

(b) 其他

肥料として糖蜜を使用する實驗は結果不良であつたが、其價格が一モウンド當り八アナ以下なる時は、之を燃料として用ふることが有利であらう。

時は、之を燃料として用ふることが有利であらう。

(六) マドラス

(a) 甘蔗栽培、品種及び肥培研究

マドラス州ではアナカパル研究所で甘蔗研究が大規模に繼續されてゐる。甘蔗の月別植付研究が、其の發育及び蔗汁の質に與ふる影響研究の目的を以つて、殆んどすべての農事研究支所で行はれた。二月—四月間に植付け、翌年刈取りたる甘蔗は發育良好で、蔗汁の品質も良好であつた。六月以後に植付けたものは總べての點で劣つてゐた。Co. 351 乃至 Co. 357 の七種の交配種(甘蔗×さたうよし交配種)につきアナカパルに於いて、農場栽培の規模に於ける發育狀態を研究する目的で、刈取試驗をした。之の結果、Co. 351, Co. 352, Co. 353, Co. 355 及び Co. 356 が優良品種と決定された。Co. 351 は登熟早く、且つ含糖率も高かつた。又同所に於いて、甘蔗の植付を通常の畦式になす方が、溝へ植付くるよりも、產糖量は多い、然し後者の方が產糖の質は良好で、倒伏の點では兩者大した相違はないと言ふ結論が得られた。植付本數增加の實驗では、植付數を增加するも產糖高は增加しないとの結論であつて、M. A. 21 の如き甘蔗に於いては、一エーカー當り一二、〇〇〇本以上の植付は不必要であつた。包裝及び支柱に關する實驗によれば、之によつて若干產糖の增加はあるも、之に要する莫大の支出を償ふに足る程のものではなかつた。パルール農事研究支所で十年にわたり續けて來た輪作研究は終に實を結んで、甘蔗を隔年植付ることは地力を害ふ故に、二年置きに植付くることが好ましく、三年置きに植付くる時は、良好な產糖量を見ることが出來ると結論された。ヴイザガパタムでは、Co.

213 を濕地に植付け植付時に唯一度灌漑せるのみで栽培したるに、同地固有の紅蔗よりもヂャガリー糖の生産高三六％増加を見得た。同地方として正常な狀態の下で、品種試驗を試みた所 POJ 2878 が一エーカー當り五一・七八噸で最高收穫高を擧げた。Co. 281 之に次ぎ、一エーカー當り四六噸であつた。J. 247 が引續いて一般に栽培せられてゐる。Co. 213 は試驗時代を脱し、固有の紅蔗に代つて栽培せられつゝある。Co. 281, Co. 243, Co. 313 及び POJ 2878 も有望視せられ、夫々適應した狀態の蔗園に栽培されてゐる。南アルコットでは Fiji B が含糖率の高い爲に他の品種を押へてゐる。Co. 213 及び Co. 290 がコイムバトールで評判がよい。

サマルコタに於ける肥培試驗によれば、硫安單獨又は油粕(蓖麻又は落花生の)との混合施肥は、油粕のみより收穫を增加すると。パルールにては硫安の方が、硝酸ナトリウム又は之と Poonac を混合したるものより勝つてゐた。加里及び無水燐酸に、窒素二〇〇封度を油粕又は硫安の形で加へたものを施した時最高の收穫高が得られた。

(b) 甘蔗モザイク病

モザイク病疾患率を各品種について試驗する實驗によれば、POJ 2878 及び Co. 335 は完全に免疫的であり、Co. 402 及び Co. 412 は相當抵抗力があり、Co. 213, Co. 360, Co. 361, B. 3412, E.K. 28, Poovan 及び Vellai は疾患率極めて高かつた。Co. 213 についてモザイク病による損失測定を實驗せる所、一エーカー當り甘蔗收量にて一五％と言ふ著しい損失を示した。

(七) ベンゴール

(a) 甘蔗品種試驗

宣傳の効あつて、ベンゴールに於ける Co. 213 の栽培が非常に普遍的になつた。農民は、改良 Co. 213 種

(b) 甘蔗モザイク病

モザイク病疾患率を各品種について試驗する實驗によれば、POJ 2878 及び Co. 335 は完全に免疫的であり、Co. 402 は相當抵抗力があり、Co. 213, Co. 360, Co. 361, B. 3412, E.K. 28, Poovan 及び Vellai は疾患率極めて高かつた。Co. 213 についてモザイク病による損失測定を實驗せる所、一エーカー當り甘蔗收量にて一五%と言ふ著しい損失を示した。

(七) ベンゴール

(a) 甘蔗品種試驗

宣傳の効あつて、ベンゴールに於ける Co. 213 の栽培が非常に普遍的になつた。農民は、改良 Co. 213 種が甘蔗收穫高も多く、グール糖製造に當つても品質數量に於いて良好であることを一般に熟知して來たと報告されてゐる。官有蔗園で行はれた實驗によれば、Co. 213 を水田に移植して栽培することが可能であつた。十二種の甘蔗がダッカ蔗園で研究と繁殖の目的で栽培せられた。ダッカ實生研究支所からコイムバトール品種四種が試培用に取寄せられた。實驗の結果七種は可もなく不可もなきものとして除かれた。實生研究支所では實生の育成作業を續けてやつてゐる。Co. 213 の他に、九十七品種が試驗に供せられてゐるが、中八種は極めて有望視せられてゐる。

(b) 開放鍋法による製糖に關する實驗

ベンゴール州農事技師協會により企劃された改良壓縮機及び爐に關する研究が繼續された。開放鍋法による製糖を宣傳する爲工場をラジユシヤヒ及びマルダに夫々建設した。改良給氣機、沈澱槽、分蜜機等が同工場用に製作された。ダッカ農園でも白糖製造に關する研究が續いて進められてゐる。

(八) ビルマ

(a) 甘蔗品種、肥培及び栽培實驗

ビルマに於ける米穀栽培適地に於いては、甘蔗栽培が何よりも一番水稻によつて代られ易いと稱せられてゐる。然し甘蔗の良好な收穫は一エーカー當り一二噸と言はれてゐるが、之は恰度一二〇

ルピーの粗收入となるに反し、米作ではやつと二五ルピー見當である。ピンマナ中央農場が行つた調査によれば、ピンマナ地方に甘蔗栽培の適地が約二〇、〇〇〇エーカーある。同地在來種の甘蔗は收穫量も含糖率も僅少であるので、中央農場では、既に普遍化され收穫量にても含糖率にても在來種を遙に凌ぐ爪哇系統の品種、殊に著名なるPOJ 2878及びPOJ 2727をビルマに移入するに成功した。研究の結果若しも製糖期末まで蔗園に置いておける如き品種のものを適當に栽培するならば、製糖期間を延長し得るのではあるまいかと考へられてゐる。肥培試驗も繼續され、農場の實際にあたつての一番よい肥料は硫安で、之をPOJ 2878について一エーカー當り三ハンドレット・ウエイト施した所二九％收穫高の增加を來した。硫安に加里及び無水燐酸を混合した肥料は含糖率に大した變化を見せなかつた。植付に當つて、手を以つて小穴を掘ると言ふ若干勞力を要する方法に改めた所、甘蔗の發育に從來と異る所あり、而も良好で、一エーカー當り四〇乃至五〇噸の收穫高を見た。

(b) 甘蔗病蟲害

ミイトキイナ方面に於ける甘蔗黑甲蟲害を續いて研究した。甘蔗を二年以上にわたり農場に栽培して居ると、螪螬により大なる被害を蒙る。然し相當の被害を受けた蔗園でも、之を鋤起し、整地して一期間之を休閑地としておけば、最早甘蔗を植えても何ら被害を見ないと言ふことが分つた。黑甲虫の新なる二種が從來よりも多數に發見された。螪螬は續いて研究されたが、之は幼虫としても又成虫としても甘蔗には被害を及ぼさぬ甲虫の一種と言ふことが明かになつた。

現にある他の病虫は穿孔虫及び米象である。之に對する唯一の對策は耕地を鋤起す時病虫の被害ある株出母株をすべて燒却することである。

して居ると、蠐螬により大なる被害を蒙る。然し相當の被害を受けた蔗園でも、之を鋤起し、整地して一期間之を休閑地としておけば、最早甘蔗を植えても何ら被害を見ないと言ふことが分つた。黒甲虫の新なる二種が從來よりも多數に發見された。蠐螬は續いて研究されたが、之は幼虫としても又成虫としても甘蔗には被害を及ぼさぬ甲虫の一種と言ふことが明かになつた。

現にある他の病虫は穿孔虫及び米象である。之に對する唯一の對策は耕地を鋤起す時病虫の被害ある株出母株をすべて燒却することである。

(九) アッサム

(a) 甘蔗品種、肥培及び栽培試驗

ヨルハート農場の手によつてアッサムに始めて移入された新品種甘蔗はすべて、一エーカー當り甘蔗收穫高に於ても、產糖高に於ても、在來種 Teli に優つてゐた。殊に POJ 2878 は何れの點にても最優秀で、之についでは POJ 2714 及び Co. 290 であつた。株出甘蔗による收穫では一エーカー當り甘蔗收穫高及び產糖高とも POJ 2714 が最高で Co. 270 及び POJ 2878 が之についだ。

肥培試驗が再び計畫され、各操作がすべて四回行はれた。Co. 213 の株出甘蔗につき、一エーカー當り燐酸アムモニアを六〇〇封度の割にて施した場合が、一エーカー當り產糖高二一・二三%の增加にて最高を示し、一エーカー當り油粕二、〇〇〇封度及び同一、〇〇〇封度に無水燐酸三〇〇封度を加へたものが夫々一九・八六及び一五・〇七%の增加で之についだ。一エーカー當り過燐酸三〇〇封度、油粕一、〇〇〇封度、硝酸曹達三〇〇封度の混合肥料は甘蔗收穫高では最高の增加であつたが、產糖高が比較的少量であつた。硝酸曹達三〇〇封度と油粕一、〇〇〇封度は產糖高で僅かの增加に過ぎなかつた。上述の諸肥料に比すれば、硝酸曹達と硫安との混合肥料によるものゝ蔗汁の質はかなり劣つたものであつた。

Co. 213 及び POJ 2714 の二品種の場合、十月植付のものは三月植付のものに比し、甘蔗收穫高にて Co. 213 にては三五、九二〇封度、POJ 2714 にては一六、四〇〇封度の增加であつた。蔗園が豺の被害を受けるアッサムにては甘蔗の堅牢なることが重要な要件であるので、刺孔試驗が數種について行は

れた。試驗の結果より之を堅牢さの順に記せば、POJ 2714, Co. 331, POJ 2898, Co. 313, Co. 213, Co. 290, Teli, Co. 363, の順であつた。

(b) グール糖の保存

封蠟した土壺内でのグール糖保存に關する實驗を繼續したが、壺中に容れおいたグール糖は完全に保存され、販賣に一向差支なかつた。之は前回の實驗と全く一致した。

(十) ボムベイ

(a) 甘蔗品種、肥培及び栽培試驗

コパルガオン農場に於ける品種試驗の結果は、E.K. 28 が最高成績で POJ 2878 が最低であつた。株出甘蔗としては POJ 2878 がエーカー當りグール糖産額にて最高を示し、植付甘蔗としては D. 109 が最低であつた。E.K. 28 は株出甘蔗としても優良であつた。E.K. 28 は之を十二月若は一月に刈取る時は、發芽不良であつたが、三月に刈取りたるものは發芽全く良好であつた。然し十一月に發芽した時は之を成育せしむること困難であつた。POJ 2878 は E.K. 28 に比しやゝ硬いと言ふ點があるが、植付としても、株出としても、ブリックス度は最高であつた。甘蔗とさたうよしとの交配種卽ち Co. 357 をベルワンデイで栽培したが、此種は成熟に八ヶ月以上を要する樣に思はれる。クムプタ農場で Co. 281, Co. 290, Co. 231 及び H.M. 87 がフイシャー法により、モウリシャス紅蔗と比較研究されてゐたが、モウリシャス紅蔗が產糖高にて一番勝つてゐた。

ボムベイ・デツカン所在、パデガオン研究支所では一九三三—三四年度に POJ 2878, Co. 290, Str. D. 109, H. 109, E.K. 28, Co. 360, Co. 402, H.M. 320, H.M. 89 及び Pundia の十種について最終試驗が行はれた。各種について、其の發芽、農夫數、收穫時の甘蔗數について記錄され、更に十一月以後はブリックス測

る時は發芽不良であつたが、三月に刈取りたるものは發芽全く良好であつた。然し十一月に發芽した時は之を成育せしむること困難であつた。POJ 2878は E.K. 28に比しやゝ硬いと言ふ點があるが、植付としても、株出としても、ブリックス度は最高であつた。甘蔗とさたうよしとの交配種卽ちCo. 357をベルワンデイで栽培したが、此種は成熟に八ヶ月以上を要する樣に思はれる。クムプタ農場でCo. 281, Co. 290, Co. 231及びH.M. 87がフイシャー法により、モウリシヤス紅蔗と比較研究されてゐたが、モウリシヤス紅蔗が產糖高にて一番勝つてゐた。

ボムベイ・デツカン所在、パデガオン研究支所では一九三三—三四年度にPOJ 2878, Co. 290, Str. D. 109, H. 109, E.K. 28, Co. 360, Co. 402, H.M. 320, H.M. 89及びPundiaの十種について最終試驗が行はれた。各種について、其の發芽、農夫數、收穫時の甘蔗數について記錄され、更に十一月以後はブリツクス測定が續けられた。

發芽は一般に不良であつたし、發育期には穿孔虫にはげしくやられて發育が遲れた。然しコイムバトール種が之等不良な狀況によく對抗し得たことは注目すべきであつた。此實驗から結論を引出すことは早計であるが、實驗の結果は

一、コイムバトール種は新墾の土壤にもよく發育し得る傾向が見られた。

二、Co. 360がPOJ 2878と殆んど匹敵する成績をあげた。唯だ登熟期が少し遲れる。

三、Co. 402は晩熟種であるが、收量は多量である。尤もブリツクス度は必然的に低い。

コイムバトール及びマイソール所產の若干の新種、並びに甘蔗—さたうよし交配の新系統種に關しての豫備試植が行はれた。コイムバトール及びマイソールにて既に試驗濟みの五種のものゝ中Co. 416, Co. 419, H.M. 606及びH.M. 609の四種が有望である。甘蔗—さたうよし交配種に關しては實驗材料が非常に少いので、僅か登熟試驗を行ひ得るのみであつた。此種のものゝ植付適期を決定しやうと、二月と六月に植付を行つた。結果は、二月植付のものは發育順調であつたが、六月植付のものは不良であつた。交配種五種を試植したが、當地の狀態の下では第六ヶ月目に蔗汁の純粹度が最高に達した。品種中間試驗によればCo. 403, Co. 404, Co. 405及びCo. 406の四つのコイムバトール種が有望視される。

甘蔗の窒素所要量に對する實驗がコパルガオン農場で行はれた。一九三三—三四年度の結果によ

量は必要量としては不足であることが分つた。又窒素の量が少い程登熱が早いと言ふことも知られた。根部組織の發育經過に關する研究によれば、其が窒素施肥量に正比例することも確められた。無機質肥料の吸收は成長期には極めて少量で、完全に發育し終つてからが最大

れば、一エーカー當りの窒素量を増加することにより、植付甘蔗にても株出甘蔗にてもその收穫高に大きな増加があつた。諸實驗の數字を平均しても同樣の傾向が確認される。然しエーカー當り窒素量一五〇又は二〇〇封度を株出甘蔗に施肥した場合には、その甘蔗收穫高にもグール產糖高にも大した相違はなかつた。一九三〇—三一年度の實驗のみは、エーカー當り一五〇封度を施肥した場合の方が二〇〇封度施肥した場合より遙にその產糖高が多かつた。之を例外として、窒素施肥量を増加した方が結果は良かつた。

甘蔗の肥料所要量に關する實驗がパデガオン甘蔗研究支所で續けられてゐる。該實驗は中等程度の土壤で行はれ、定期的移植に便なるやうに植付は芽を一つ宛に分けてなした。實驗は以下の如くに行はれた。

施肥	品種
一、窒素　一五〇封度	Pundia
二、同　一五〇封度	POJ 2878
三、同　三〇〇封度	同
四、同　五〇封度	同

施肥量の相異を除いて、耕作、灌漑等はすべて標準 Manjri 法に從ひ行つた。結果は、硫安施肥量の相異は發芽の率に何ら影響なく、濕度の影響は品種により異つてゐた。Pundia 種は大氣の狀態殊に濕度に敏感であつたが、POJ 2878 は外界の影響を受けること少かつた。窒素施肥量五〇、一五〇及び三〇〇封度の各々が產糖高に及ぼす影響は夫々〇·八：一：一·五の比例となつた。窒素五〇封度の施肥

三、同　三〇〇封度　同

四、同　五〇封度　同

施肥量の相異を除いて、耕作、灌漑等はすべて標準 Manjri 法に從ひ行つた。結果は、硫安施肥量の相異は發芽の率に何ら影響なく、濕度の影響は品種により異つてゐた。Pundia 種は大氣の狀態殊に濕度に敏感であつたが、POJ 2878 は外界の影響を受けること少かつた。窒素施肥量五〇、一五〇及び三〇〇封度の各々が產糖高に及ぼす影響は夫々〇・八：一：一・五の比例となつた。窒素五〇封度の施肥量は必要量としては不足であることが分つた。又窒素の量が少い程登熱が早いと言ふことも知られた。根部組織の發育經過に關する研究によれば、其が窒素施肥量に正比例することも確められた。無機質肥料の吸收研究によれば、吸收は成長期には極めて少量で、完全に發育し終つてからが最大であつた。肥料分吸收の點から言へば、加里が第一で燐酸が最も惡い。然し肥料としては窒素及び燐酸が最も重要である。

コパルガオン農場で甘蔗栽培の改良法(改良 Manjri 農場法)と在來法の比較研究が行はれた。收穫高は改良法によるものより在來法によるものゝ方が多かつたが、在來法による場合の方が耕作の費用が餘計であつた。Mal 質土壤に於いて灌漑なくして甘蔗は成育し得るや否やの研究の爲、コイムバトール種三種の實生を種苗床にて採取の上、クムプタ農場内の Mal 質土壤に移植し、移植後全然灌漑を行はなかつたが、Co. 312 は一エーカー當り液狀グール糖產額三、〇〇〇封度、純益一エーカー當り二五ルピーと言ふ相當の成績をあげた。パデガオンに於ける甘蔗收穫に關する其他注目すべき研究は左の如きものであつた。

一、蔗園土壤の物理的性狀の有する影響

二、收穫に關する詳細なる資料及び植物學的觀察

三、土壤の硝化と窒素還元

四、農業氣象學的研究

五、甘蔗の水分所要量

六、水分と肥料の關係

七、グール糖性分の研究

(b) 開放鍋法(Open-pansystem)による製糖

デツカン運河地帶にて一九三三—三四年度製糖の行はれたのは八ヶ所であつた。二三の所では E.K. 28 及び POJ 2878 種が壓縮されたが、其他では Pundia 種のみであつた。E.K. 28 からは甘蔗重量の六・二五%の一番糖と一・七五%の二番糖を產した。ホルでは歩留は五・八%で、糖蜜より二番糖を製することなく、グール糖のみを製した。サタラ區では六ヶ所で、開放鍋法による製糖について同樣の試驗を行つて好成績を擧げた。一九三三—三四年度に新設計が考案され、開放鍋法による白糖及びグール糖製造工場に用ひられたが好評を博したとの報告が來た。

(十二) 西北國境州

(a) 甘蔗品種、栽培及び肥培試驗

同州內殊にペシャワル區にては、甘蔗が最も重要な商品化せられた作物の一である。最も多く栽培されてゐるのは Pundia 及び Assam Red で、主として地主によつて栽培されてゐる。一九三三—三四年度にタルナブ農場で試植されたのはコイムバトール系統のもの二十種で、其中 Co. 285, Co. 403 及び Co. 412 が相當有望であると。ハリプール農場で Co. 213 及び Co. 290 の二種の株出試驗が其の第三年目に當つたが、Co. 290 の方が勝れた品種と言ふことになつた。タルナブ農場での肥培試驗の結果によれば、無水燐酸五〇封度及び窒素八〇封度を施肥したものゝ方が、無水燐酸の同量に、窒素を夫々四〇及び六〇封度加へた場合よりも收穫高にて勝れてゐた。無水燐酸七五封度と窒素を四〇、六〇若くは八〇封度宛加へた場合を夫々比較したらば、無水燐酸七五封度に窒素八〇封度を加へたものが最高であつた。又他の實驗で無水燐酸一〇〇封度に窒素を夫々四〇、六〇及び八〇封度宛を

同州内殊にペシャワル區にては、甘蔗が最も重要な商品化せられた作物の一である。最も多く栽培されてゐるのは Pundia 及び Assam Red で、主として地主によつて栽培されてゐる。一九三三—三四年度にタルナブ農場で試植されたのはコイムバトール系統のもの二十種で、其中 Co. 285, Co. 403 及び Co. 412 が相當有望であると。ハリプール農場で Co. 213 及び Co. 290 の二種の株出試驗が其の第三年目に當つたが、Co. 290 の方が勝れた品種と言ふことになつた。タルナブ農場での肥培試驗の結果によれば、無水燐酸五〇封度及び窒素八〇封度を施肥したものゝ方が、無水燐酸の同量に、窒素を夫々四〇及び六〇封度加へた場合よりも收穫高にて勝れてゐた。無水燐酸七五封度と窒素を四〇、六〇若くは八〇封度宛加へた場合を夫々比較したらば、無水燐酸七五封度に窒素八〇封度を加へたものが最高であつた。又他の實驗で無水燐酸一〇〇封度に窒素を夫々四〇、六〇及び八〇封度宛を加へて施肥して比較したるに、無水燐酸一〇〇封度に窒素八〇封度を加へたものが最高であつた。甘蔗植付の最適期を見出す實驗も小規模に行はれた。實驗に供せられたのは Assam Red であつた。早植の方は一九三三年二月二十二日に植付け、遲きは三月二十二日に植付けたが、結果は早植の方が良好であつた。

(b) 爐及び甘蔗壓縮工場に關する實驗

二重構造の爐が同地在來のものと比較して研究された。蔗農にとつては燃料が大問題故此研究の目的も此の點よりみて最もよい爐を見出すにあつた。卽ち燃料消費量の少いグール製糖用の爐が歡迎される譯である。二重構造の爐は滿足すべき成績を示さなかつた。然し之について結論を出す爲には尙ほ續いての研究が必要である。二箇の甘蔗壓縮工場が試驗に供された。其の一は小規模のもので蔗作者に好適であるとの報告が出てゐる。

(c) 甜菜栽培試驗

左の五種の甜菜が試驗された。

一、Sutton improved　二、Carter No. 1　三、Guman　四、獨逸種 E　五、獨逸種 (ZZ)

氣候の狀態が不良であつたので、(一)及び(二)は發芽不良であつた。獨逸種 (ZZ) が最高の產糖高を擧げた。

五　財政關係

本年度、外國糖に課する保護關稅は從前通り百ハンドレッド・ウエイトに付七—四—〇ルピーであつた。二五%の附加稅(百ハンドレッド・ウエイトに付一—一三—〇ルピー)も同樣であつたから、外國糖に對する輸入稅總額は百ハンドレッド・ウエイトに付九—一—〇ルピーであつた。糖蜜の關稅(附加稅を含めて)は從前通り從價三一・二五%であつたし、關稅賦課の爲の査定も前年度と同樣であつた。

一九三四年公布砂糖消費稅法は同年四月一日より施行せられた。一九三四年甘蔗法(一九三四年法律第一五號)第三節及び第七節による權限の施行に關し、聯合州及びビハール、オリッサ州政廳は各々聯合州甘蔗規則及びビハール、オリッサ州甘蔗規則を制定し、夫々一九三四年十二月一日及び十日より施行せられてゐる。大要之等規則は前記法律の主旨に則り、特定區域を指定し、同區域內に於ける製糖工場用原料甘蔗の最低購入價格を定め、且つ甘蔗耕作者若くは公認仲買人以外よりの甘蔗の購入を禁止してゐる。

六　印度全土に於ける製糖機械の取引

印度に於ける本年度製糖機械の輸入額は、一九三三—三四年度の三、三六、三八、八一四ルピー(註)に對し、一、〇五、四五、四三九ルピーであつた。第八表は一九二五—二六年度乃至一九三四—三五年度間に於ける製糖機械の印度輸入價額並びに輸出國別數字、陸上げをなしたる印度沿海諸州別內譯を示す。其によれば製糖機械が本年度に始めて爪哇及び日本より輸入せられたことが分る。

(註　印度にては價格計算に際し、千、十萬、千萬ルピーを單位として用ふる慣習あり。)

第八表　過去十ケ年間に於ける製糖機械輸入價額並びに印度沿海諸州別內譯(單位ルピー)

六　印度全土に於ける製糖機械の取引

印度に於ける本年度製糖機械の輸入額は、一九三三―三四年度の三、三六、三八、八一四ルピー(註)に對し、一、〇五、四五、四三九ルピーであつた。第八表は一九二五―二六年度乃至一九三四―三五年度間に於ける製糖機械の印度輸入價額並びに輸出國別數字、陸上げをなしたる印度沿海諸州別内譯を示す。其によれば製糖機械が本年度に始めて爪哇及び日本より輸入せられたことが分る。

(註　印度にては價格計算に際し、千、十萬、千萬ルピーを單位として用ふる慣習あり。)

第八表　過去十ケ年間に於ける製糖機械輸入價額並びに印度沿海諸州別内譯(單位ルピー)

	英國	獨逸	和蘭	白耳義	佛蘭西	伊太利	北米合衆國	チェコスロヴァキア	爪哇	日本	其他	合計
一九二五―二六年度	二、三二、二八五	二、四七、五三	—	二五三	四、七四六	—	六三、三八	—	—	—	—	一五、九七、一三五
一九二六―二七年度	五、五五、〇九二	二、四九	—	一、三六五	七、八〇四	—	三五、〇六	—	—	—	—	六、二〇、八三七
一九二七―二八年度	七、二五、九五六	一、二、二七	—	五、九七二	四五、二四五	—	二四、八三八	—	—	—	—	九、一三、二九八
一九二八―二九年度	一六、三〇、四八七	三、三五	—	—	六一、〇八七	—	三六、八五二	—	—	—	—	一七、五一、六四一
一九二九―三〇年度	八、四九、二四三	八、三三	—	三、二一〇	三〇、四二二	六三五	一八、〇二二	—	—	—	一、二二六	九、二一、〇九九
一九三〇―三一年度	二〇、八二、八六六	二三、二三	—	—	二、三〇、三三	—	三二、二四	—	—	—	—	一三、六八、七一六
一九三一―三二年度	二六、三二、九九二	一、八六七〇	—	三二、七五二	二、二二、二九七	—	二七、三八二	—	—	—	三五八	三〇、一四、四四九
一九三二―三三年度	九二、四八、〇一八	一七、八三、六四九	二〇、八八、九七一	三二、七六、二六三	二六、八〇	二三三	一六、三二四	—	—	—	二、七七二	一、五三、一二、一六六
一九三三―三四年度	一、九五、八七、五九五	三、二、四四三	六〇、五三、六〇五	四、七九、二六三	五九、二、四二	一、三四四	一二、〇二二	一、二三、四九一	—	—	一、八、四二八	三、三六、三八、八一四
一九三四―三五年度	七三、六〇、五〇九	二二、四、六六一	六、八、二、五四五	一、八二三	一〇、三〇、二三五	四、三〇五	七〇、三八六	一、八三、八二八	三二、四八六	二〇、五五六	一、九四、二六六	一、〇五、四五、四三九

(註　印度にては價格計算に際し、千、十萬、千萬ルピーを單位として用ふる慣習あり。)

	英國	獨逸	和蘭	白耳義	佛蘭西	伊太利	北米合衆國	チェコスロヴァキア	爪哇	日本	其他	合計
合計	一五、九七、一二七	六、二〇、八三七	九、一三、二九八	一七、五一、六四一	九、二一、〇九九	一三、六八、七一六	三〇、一四、四四九	一、五三、一一、一六六	三、三六、三八、八一四	一、〇五、四五、四三九		

各州内譯	ベンゴール	ボムベイ	シンド	マドラス	ビルマ	合計
英國	一四、九二、四七四	七〇、六九〇	六、二二九	一九、二六六	八、四三八	一五、九七、一二七
獨逸	五、三〇、八四二	五四、二四六	二、八五六	一九、八二六	一三、〇六七	六、二〇、八三七
和蘭	七、一四、八一六	四三、五八一	一〇、九二三	一、二七、五五五	一六、四四二	九、一三、二九八
白耳義	一六、四〇、一一九	七三、七九四	五一七	二二、九六六	二〇五	一七、五一、六四一
佛蘭西	五四、〇四、四九二	三三、六六四	三、一七、一五六	一、九四〇五	一、三〇、三六七	九、二一、〇九九
伊太利	一、三六、二二一	一九、四〇五	六、九、五六三	四、一八、七二三	三、一四八	一三、六八、七一六
北米合衆國	二、一二、一二一	二二、〇八、九一六	六、一二六、六六〇	四六、九八、三九六	一、五五、八七、五五九	三〇、一四、四四九
チェコスロヴァキア	一、八三、四九一	六八、〇一九	一、一二、四九一	一、一八、二一八	三二、四二八	一、五三、一一、一六六
爪哇	—	—	—	八、九六、八四八	三、五五、八一六	三、三六、三八、八一四
日本	—	—	—	四、一八、七二三	一、八、四二八	一、〇五、四五、四三九
其他	一、二二、一一六	二、七七二	一、二二、一一六	一、九四、二六六	一、九四、二六六	一、〇五、四五、四三九
合計	一、五三、一一、一六六	三、三六、三八、八一四	一、〇五、四五、四三九			

七　全印度砂糖取引

（一）グール糖

(a)生産高

印度に於けるグール糖の正味産額は前期の三、四七七、〇〇〇噸に對し三、六九二、〇〇〇噸と推定される。本期卽ち一九三四—三五年度の前期比較純增加は二一五、〇〇〇噸卽ち約六・二%である。第九表は過去十ヶ年間の印度に於けるグール糖の正味産額を示す。

第九表　グール糖（直接消費向）生産高（推定）

一九二五—二六年度	二、〇八九、〇〇〇噸
一九二六—二七年度	二、三一三、〇〇〇
一九二七—二八年度	二、二七六、〇〇〇
一九二八—二九年度	一、七七八、〇〇〇
一九二九—三〇年度	一、八三七、〇〇〇
一九三〇—三一年度	二、二四五、〇〇〇
一九三一—三二年度	二、七七二、〇〇〇
一九三二—三三年度	三、二四五、〇〇〇
一九三三—三四年度	三、四七七、〇〇〇
一九三四—三五年度	三、六九二、〇〇〇

一九二六—二七年度	二、三一三、〇〇〇	
一九二七—二八年度	二、二七六、〇〇〇	
一九二八—二九年度	一、七七八、〇〇〇	
一九二九—三〇年度	一、八三七、〇〇〇	
一九三〇—三一年度	二、二四五、〇〇〇	
一九三一—三二年度	二、七七二、〇〇〇	
一九三二—三三年度	三、二四五、〇〇〇	
一九三三—三四年度	三、四七七、〇〇〇	
一九三四—三五年度	三、六九二、〇〇〇	

(b)陸上經由輸入高

印度隣接諸外國よりのグール糖又は椰子糖の陸上經由の輸入は皆無であつた。ビルマの國境街道を通過して輸入せられた高は前年度の三八噸に對し二四噸であつた。

(c)海運又は陸運による輸出高

ヂャツガリー糖及び椰子糖の海路輸出は前年度の一、二〇一噸、價額一、七三、一六二ルピーに對し、一五三噸、價額にして一、八〇、一九七ルピーであつて、內セイロン向輸出は八九〇噸、價額にして一、三五、〇一一ルピーであつた。印度及びビルマよりの粗糖の陸路輸出は一九三三—三四年度の六、二八六噸に對し四、一七六噸であつた。

(二) 砂糖(分蜜糖)

(a)國內生產高

前述せる如く、印度に於ける新式製糖工場及び精糖工場に於ける分蜜糖の產額は一九三二—三三年度の三七〇、二八三噸に對し一九三三—三四年度は五一五、〇五九噸であつた。之に舊式製糖法による分蜜糖產額二〇〇、〇〇〇噸を加ふれば、一九三三—三四年度の全產糖額は七一五、〇五九噸に上る。

一九三四—三五年度に於いて新式製糖工場の產糖額は五七八、一一五噸に達し、之にグール糖精製

工場及び舊式製糖法により製造せられたものが夫々四〇、〇〇〇噸及び一五〇、〇〇〇噸と推定されるから、全產糖額は七六八、一一五噸に上る。

(b) 印度產糖の海上輸出高

印度よりの國產分蜜糖の海路による輸出は昨年度の四二五噸、價額四、四五一ルピーに對し三六三噸、六三、〇八六ルピーであつた。

(c) 外國糖の海路による輸入高

英領印度諸港(註)の砂糖(糖蜜を除く)輸入高は一九三三—三四年度の二六一、三〇〇噸、價額二、七〇(十萬ルピー)なりしに對し、一九三四—三五年度は二二二、九〇〇噸、價額にして二、一一(十萬ルピー)であつた。其の中爪哇糖の輸入高は前年度の一九四、四〇〇噸に對し本年度は一七五、九〇〇噸であつた。甜菜糖の輸入高も二七、五五六噸、二八(十萬ルピー)が二六、八一一噸、價額二四(十萬ルピー)に減少した。沿海諸州の爪哇糖輸入高は左表の如くである。(註)カチャワール諸港への輸入高を含まず

	一九三四—三五年度		一九三三—三四年度	
ベンゴール	二〇、〇〇〇噸	一一%	二三、〇〇〇噸	一一・八%
ボムベイ	五八、〇〇〇	三四	七四、七〇〇	三八・四
シンド	三四、〇〇〇	一九	三三、九〇〇	一七・五
マドラス	四七、〇〇〇	二六	四三、九〇〇	二二・六
ビルマ	一七、〇〇〇	一〇	一八、九〇〇	九・七

一九三四—三五年度レヴュー・オブ・ザ・トレイド・オブ・インディアより轉載せる第十表は一九二九—三〇年度乃至一九三四—三五年度間六ヶ年間に於ける輸入高を戰前の一九一三—一四年度と比較して示す。

	一九三四—三五年度	一九三三—三四年度
ベンゴール	二〇、〇〇〇噸	二三、〇〇〇噸
ボムベイ	五八、〇〇〇	七四、七〇〇
シンド	三四、〇〇〇	三三、九〇〇
マドラス	四七、〇〇〇	四三、九〇〇
ビルマ	一七、〇〇〇	一八、九〇〇
	一%	一一・八%
	三四	三八・四
	一九	一七・五
	二六	二二・六
	一〇	九・七

一九三四—三五年度レヴユー・オブ・ザ・トレイド・オブ・インディアより轉載せる第十表は一九二九—三〇年度乃至一九三四—三五年度間六ヶ年間に於ける輸入高を戰前の一九一三—一四年度と比較して示す。

第十表　印度砂糖輸入高（糖蜜を除く）

	一九一三—一四年度（戰前）	一九二九—三〇年度	一九三〇—三一年度	一九三一—三二年度	一九三二—三三年度	一九三三—三四年度	一九三四—三五年度
英本國	九〇〇噸	五九、三〇〇噸	八、四〇〇噸	二二、九〇〇噸	三四、九〇〇噸	三六、七〇〇噸	一六、八〇〇噸
セイロン	一〇〇	三、六〇〇	五、七〇〇	一、一〇〇	一〇〇	—	—
爪哇	五八三、〇〇〇	七八一、一〇〇	八〇九、七〇〇	三六六、八〇〇	二九四、八〇〇	一九四、四〇〇	一七五、九〇〇
モウリシヤス	一三九、六〇〇	—	—	—	—	—	—
海峽植民地	二、九〇〇	六〇〇	五〇〇	四〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇
支那及香港	一、五〇〇	六、一〇〇	五、一〇〇	五、〇〇〇	二、二〇〇	三、四〇〇	三、九〇〇
葡領東阿弗利加	—	六〇〇	二〇〇	—	一二、七〇〇	一八、二〇〇	一一、一〇〇
日本	一〇〇	五〇〇	—	一〇〇	四、〇〇〇	三、五〇〇	二、七〇〇
獨逸	七〇〇	一五、二〇〇	一一、七〇〇	一五、四〇〇	三〇〇	—	二〇〇
墺地利	七四、〇〇〇	一、四〇〇	—	四〇〇	—	—	—
匈牙利		三六、五〇〇	一三、八〇〇	六〇〇	—	一、七〇〇	—
和蘭	—	二、五〇〇	六〇〇	六〇〇	五〇〇	一、三〇〇	一、八〇〇
白耳義	—	一、八〇〇	三〇〇	二〇〇	二、五〇〇	一、九〇〇	二、一〇〇
佛蘭西	—	一一、九〇〇	—	—	—	—	一、〇〇〇
チエツコ・スロヴアキア	—	九、七〇〇	六〇〇	一〇〇	五〇〇	—	一〇〇
北米合衆國	—	二〇〇	二〇〇	三〇〇	—	—	—

其他	二〇〇	八、六〇〇	四四、四〇〇	一〇一、二〇〇	一六、八〇〇	二六一、三〇〇	—	七、一〇〇
合計	八〇三、〇〇〇	九三九、六〇〇	九〇一、二〇〇	五一六、一〇〇	三六九、五〇〇	二二二、九〇〇
右價額（十万ルピー）	一四、二九	一五、五一	一〇、五四	六、〇一	四、一二	二、七〇	二、一一

(d) 砂糖陸路輸入高

印度隣接諸外國より外國產精糖の輸入はなかつた。カチャワール諸港へ輸入せられた外國糖の一部はヴイラムガム及びダンドウカにて國內關稅線を越えて英領印度へ輸入されたかゝる砂糖は昨年度の二六、三七〇噸に對し本年度は二七、五八〇噸であつた。

(e) 再輸出高

輸入糖の印度よりの再輸出高は、一九三三—三四年度の一一、五二六噸、價額七、二五、六〇二ルピーより一九三四—三五年度の二、六〇四噸、價額六、〇九、八一四ルピーへと著しく減少した。

第十一表は一九三三—三四、一九三四—三五兩年度の再輸出高詳細である。

第十一表　英領印度よりの砂糖再輸出高

	一九三三—三四年度			一九三四—三五年度		
	數量（噸）	價額（ルピー）		數量（噸）	價額（ルピー）	
和蘭標本色相第二三號以上			ケニヤ、ザンヂバル及びペムバ	一一三	二四、八七五	六
イラク	一〇五	一六、五三〇	其他	八〇一	一、六三、二七九	一、五三一
アラビヤ	一、四九一	三、七二、〇九〇				
イラン	四八八	八五、〇七五				

	一九三四—三五年度	
	數量（噸）	價額（ルピー）
ケニヤ、ザンヂバル及びペムバ	二四	三、五〇〇
其他	七八一	一、九一、九六八
	二五二	五四、二二九

第十一表　英領印度よりの砂糖再輸出高

	一九三三—三四年度		一九三四—三五年度	
	數量（噸）	價額（ルピー）	數量（噸）	價額（ルピー）
和蘭標本色相第二三號以上				
イラク	一〇五	一六、五三〇	二四	三、五〇〇
アラビヤ	一、四九一	三、七二、〇九〇	七八一	一、九一、九六八
イラン	四八八	八五、〇七五	二五二	五四、二二九
ケニヤ、ザンヂバル及びペムバ	一一三	二四、八七五	六	一、一七〇
其他	八〇一	一、六三、二七九	一、五三一	三、五八、〇一七
合計	二、九九八	六、六一、八四九	二、五九四	六、〇八、八八四
和蘭標本色相第二三號未滿	—	—	—	三〇
和蘭標本色相第一六號未滿	八、五二八	六三、七五三	一〇	九〇〇
總計	一一、五二六	七、二五、六〇二	二、六〇四	六、〇九、八一四

(f) 精製糖陸路輸出高

印度及びビルマ國境經由輸出高は前年の三三、一一〇噸に對し本年度は三四、〇三四噸であつた。

(g) 消費

消費せらるゝ砂糖の一部は(陸路又は海路)輸入せられ、他は國内にて卽ち其の新式工場にあつては甘蔗又はグール糖より、カンドサリ糖業にあつては舊來の方法により製造せられてゐる。一九三四—三五年度印度砂糖消費高詳細は左の如くである。

一九三四—三五年度印度砂糖消費高

總供給高

一九三四年四月一日現在、期初在荷　二五、三五〇噸

一九三四—三五年度消費向、一九三三—三四年度印度砂糖生産高　四五三、九六五

新式製糖法によるもの　六一、〇九四

グール糖精製

舊式製糖法によるもの	二〇〇、〇〇〇
海路による砂糖輸入高	二二二、九〇〇
海路によるカチャワール諸港砂糖輸入高	一一〇、九六三
右供給高合計	一、〇七四、二七二
海路による再輸出高	二、六〇四
海路による輸出高	三六三
陸路による輸出高	三四、〇三四
一九三五年三月三十一日現在、期末在荷	二二、三七三
右合計	五九、三七四
(差引殘高總計)	
一九三四—三五年度消費向數量總計	一、〇一四、八九八
前年度(一九三三—三四年度)	九三一、八七七

英領印度に於ける砂糖消費を計算するに當り、前年度迄はカチャワール諸港への砂糖輸入統計を入手出來なかつたので同諸港への輸入總額については之を考慮することなく、唯ヴィラムガ及びダンドウカの國内關税線を經て英領印度へ入つた量のみを計算したのであつた。本年度は上記統計を利用し得たので右の輸入總額を計算に加へ、其と共に前諸年度の消費統計にも修正を施し同じ基本の下に之を示した。

第十二表は一九三一—三二年度乃至一九三四—三五年度間の印度内砂糖消費を之が供給源泉別に總括して示したものである。

第十二表　印度砂糖需給高

英領印度に於ける砂糖消費を計算するに當り、前年度迄はカチヤワール諸港への砂糖輸入統計を入手出來なかつたので同諸港への輸入總額については之を考慮することなく、唯ヴイラムガ及びダンドウカの國内關税線を經て英領印度へ入つた量のみを計算したのであつた。本年度は上記統計を利用し得たので右の輸入總額を計算に加へ、其と共に前諸年度の消費統計にも修正を施し同じ基本の下に之を示した。

第十二表は一九三一—三二年度乃至一九三四—三五年度間の印度内砂糖消費を之が供給源泉別に總括して示したものである。

第十二表　印度砂糖需給高

	一九三一—三二年度	一九三二—三三年度	一九三三—三四年度	一九三四—三五年度
總供給高				
期初在荷(a)	一五七、八六二噸	六七、八七八噸	二二、三一六噸	二五、三五〇噸
印度砂糖生産高	一一九、八五九	一五八、五八一	二九〇、一七七	四五三、九六五
新式製糖法によるもの	三一、七九一	六九、五三九	八〇、一〇六	六一、〇九四
グール糖精製舊式方法によるもの	二〇〇、〇〇〇	二五〇、〇〇〇	二七五、〇〇〇	二〇〇、〇〇〇
海路による砂糖輸入高	五一六、〇八三	三六九、四五〇	二六一、二九九	二二二、九〇〇
海路によるカチヤワール諸港砂糖輸入高	九三、四五一	六三、七八八	七三、三九〇	一一〇、九六三
右供給高合計	一、一一九、〇四六	九七九、二三六	一、〇〇二、二八八	一、〇七四、二七二
海路による再輸出高	五、六三〇	四、〇四三	一、五二六	二、六〇四
海路による輸出高	二二六	四三七	四二五	三六三
陸路による輸出高	二八、八八五	二七、七二九	三三、一一〇	三四、〇三四
期末在荷(a)	六七、八七八	二二、三一六	二五、三五〇	二二、三七三
右合計	一〇二、六一九	五四、五二五	七〇、四一一	五九、三七四
差引消費向數量	一、〇一六、四二七	九二四、七一一	九三一、八七七	一、〇一四、八九八

註(a)は共にカチヤワール諸港に於ける在荷を含まず

(三)　糖　蜜

糖蜜の輸入高は一九三三—三四年度の二、四〇一噸、價額六八、三八八ルピーに對し僅か四一五噸、價額八、三七一ルピーに過ぎなかつた。糖蜜の印度國内産額は前年の四三〇、〇〇〇噸に對し四一〇、〇〇〇噸と推定される。

(四) 菓子

ヂャム及びヂェリーを除く菓子の輸入高は前年度の一、一三九噸、價額一七・四九(十萬ルピー)に對し一、三六〇噸、價額一七・四九(十萬ルピー)であつた。

サッカリンの輸入高は前年度の三四、九六二封度、價額二、四二、八五八ルピーに對し三五、四一八封度、價額二、四二、四四八ルピーであつた。

八　各州別砂糖取引狀況

(一) ベンゴール州

精製糖輸入高は前年度の二七、五五〇噸、價額三〇・〇五(十萬ルピー)より二二、七六二噸、價額二五・二三(十萬ルピー)に減少した。供給の大半は爪哇よりの輸入で、前年度の二二、九七七噸に對し一九、八四四噸であつた。本年度も亦甜菜糖の輸入は皆無であつた。爪哇よりの糖蜜輸入高は一九三二—三三年度の二九、五八〇噸及び一九三三—三四年の二、三八〇噸に對し、僅かに四一五噸であつた。

第十三表は一九三二—三三年度乃至一九三四—三五年度の三ヶ年間に於けるベンゴール州砂糖輸入高を示す。

第十三表　ベンゴール州砂糖輸入高

(一) ベンゴール州

精製糖輸入高は前年度の二七、五五〇噸、價額三〇・〇五(十萬ルピー)より二二、七六二噸、價額二五・二三(十萬ルピー)に減少した。供給の大半は爪哇よりの輸入で、前年度の二二、九七七噸に對し一九、八四四噸であつた。本年度も亦甜菜糖の輸入は皆無であつた。爪哇よりの糖蜜輸入高は一九三二—三三年度の二九、五八〇噸及び一九三三—三四年の二、三八〇噸に對し、僅かに四一五噸であつた。

第十三表は一九三二—三三年度乃至一九三四—三五年度の三ヶ年間に於けるベンゴール州砂糖輸入高を示す。

第十三表　ベンゴール州砂糖輸入高

仕出國別	一九三二—三三年度 數量(噸)	一九三二—三三年度 價額(十萬ルピー)	一九三三—三四年度 數量(噸)	一九三三—三四年度 價額(十萬ルピー)	一九三四—三五年度 數量(噸)	一九三四—三五年度 價額(十萬ルピー)
和蘭標本色相第二三號以上						
英本國	六五一	一・九五	一、八六六	二・三七	二九五	〇・五五
海峽植民地	一二	〇・〇二	一〇	〇・〇二	—	—
香港	七	〇・〇一	一六〇	〇・三二	三四	〇・〇七
チエツコスロヴアキア	六〇	〇・一九	—	—	—	—
獨逸	一〇	〇・〇三	—	—	—	—
和蘭	三〇	〇・〇四	四〇	〇・〇五	一〇	〇・〇三
爪哇	八五、六〇〇	一〇六・七二	二二、九七七	二三・七七	一九、八四四	二一・〇四
支那	五〇九	一・〇二	四一六	〇・六二	六九九	一・一〇
日本	一〇二	〇・二〇	一一	〇・〇三	三四	〇・〇四
露西亞(南部地方)	—	—	—	—	—	—
其他	—	—	—	—	—	—
合計	八六、九八一	一一〇・一八	二五、四八〇	二七・一八	二〇、九一六	二二・八三
和蘭標本色相第二三號未滿						
英本國	一	〇・〇一	微少		微少	
海峽植民地	三四	〇・〇八	—	—	三八	〇・〇五
爪哇	二	—	—	—	—	—

支那(香港を含む)	三五五	〇・六三	一、四四五	一・八九	一、五三七	二・〇〇
日本	一、一一〇	一・八七	六二五	〇・九七	二七一	〇・三四
合計	一、五〇二	二・五九	二、〇七〇	二・八六	一、八四六	二・三九
和蘭標本色相第一六號未滿						
英本國	一	〇・〇四	微少		微少	
獨逸	—					
チエツコスロヴアキア	一二					
日本	一二	〇・〇三				
北米合衆國	二九	〇・〇六				
和蘭	一三	〇・〇三				
其他	—	—				
合計	六七	〇・一六				
甜菜糖						
和蘭	二〇	〇・〇二	無		無	
糖蜜						
爪哇	二九、五八〇	九・四〇	二、三八〇	〇・六七	四一五	〇・〇八

(註) 印度ノ通貨ルピー、アナ、パイ間ノ比率ハ 1 Rupee=16 Anna, 1 Anna=12 Pieデ アツテ、十萬ルピーヲ一ラク(Lakh)、千萬ルピーヲ一クローレ(Crore)トヨブ。

カルカツタに於ける爪哇白双の價格は一九三四年四月六日に一モウンド當り一〇—一—〇ルピーで、之に對し同日國内產糖は一モウンド當り九—四—〇ルピーであつた。爪哇糖の値段は翌月一〇—〇—〇に下り、六月には更に之より二アナ下つた。更に八月には九—十二—六ルピー迄下つたが、九月に入るや消費(需要)の改善と共に價格も同月十四日には九—一四—〇ルピーに上り、國内糖も九—一〇—〇ルピーとなつた。十一月末に爪哇糖九—六—〇ルピー、國内糖九—一—〇ルピーとなり十二月もほゞ同値に保合つた。一九三五年一月に入つて需要活潑、在庫又少量となり、一月末に

糖	爪哇	二九、五八〇	九・四〇	二、三八〇	〇・六七	四一五	〇・〇八

（註）印度ノ通貨ルピー、アナ、パイ間ノ比率ハ 1 Rupee=16 Anna, 1 Anna=12 Pie ナリ アッテ、十萬ルピーヲ一ラク(Lakh)、千萬ルピーヲ一クローレ(Crore)トヨブ。

カルカッタに於ける爪哇白双の價格は一九三四年四月六日に一モウンド當り一〇—一—〇ルピーで、之に對し同日國内産糖は一モウンド當り九—四—〇ルピーであつた。爪哇糖の値段は翌月一〇—〇—〇に下り、六月には更に之より二アナ下つた。更に八月には九—十二—六ルピー迄下つたが、九月に入るや消費(需要)の改善と共に價格も同月十四日には九—一四—〇ルピーに上り、國内糖も九—一〇—〇ルピーとなつた。十一月末に爪哇糖九—六—〇ルピー、國内糖九—一—〇ルピーとなり十二月もほゞ同値に保合つた。一九三五年一月に入つて需要活潑、在庫又少量となり、一月末には爪哇糖値段は九—九—〇ルピーに上り、更に二月に入つて一アナの騰貴を見た。然しやがて需要の活潑なる増加を缺き、市場の豫想の如く相場は下押し、二月後半及び三月は小幅の動きに止り、爪哇糖九—九—〇ルピー、國内糖九—一—六ルピーの相場で年度末を送つた。

（二）シンド

シンド一九三四—三五年度沿海貿易年報より轉載せる第十四表は過去五ヶ年間に於ける砂糖の諸外國及びボムベイよりの輸入並に諸外國及び沿海諸港向輸出を示す。

第十四表　カラチ港砂糖輸出入高内譯

輸入高仕出國別	一九三〇—三一年度		一九三一—三二年度		一九三二—三三年度		一九三三—三四年度		一九三四—三五年度	
	數量	價額	數量	價額	數量	價額	數量	價額	數量	價額
	噸	十万ルピー	噸	十万ルピー	噸	十万ルピー	噸	十万ルピー	噸	十万ルピー
英本國	七、〇六〇	七・五八	一五、一四二	一七・九四	二三、九〇五	二三・九六	三、一三	二一・三二	二三、四七七	一〇・九二
露西亞(南部地方)	一六、二六七	一六・六九	二二、三二一	二三・〇五	三、五八八	三・五九	—	—	—	—
波蘭	一、四〇三	一・七七	四、八四八	五・五九	—	—	—	—	三、四四六	二・八四
獨逸	六、一三三	七・一六	一四、九六八	一七・二一	一〇	〇・〇二	—	—	三四	〇・〇六
白耳義	三一四	〇・六六	一七一	〇・三三	一二一	〇・三三	一、八五七	二・九三	七七三	〇・六七

佛蘭西	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
匈牙利	一二、一四八	一四・一八	四九五	〇・五四	—	—	—	—	—	—	—
チエツコスロヴアキア	九	〇・〇二	—	—	—	—	—	—	—	—	—
墺地利	—	—	四〇〇	〇・四七	—	—	—	—	—	—	—
爪哇	一八四、二九六	二、一四・〇六	五四、八五七	五九・二三	五六、八四七	五九・三八	三三、九〇八	三三・四九	三四、一四一	二八・一一	
エクアドル	—	—	—	—	五、四五三	五・三八	—	—	—	—	—
蘭領東阿弗利加	—	—	—	—	—	—	二、九六七	二・九五	—	—	—
日本	—	—	—	—	一五〇	〇・二四	一一七	〇・一七	九〇	〇・一〇	
其他	七九	〇・一五	二七	〇・〇六	三一	〇・〇七	二四	〇・〇五	三六	〇・〇八	
合計	三三七、八〇九	二、六二・二九	一二三、三一九	一、二三・四一	八九、一〇五	九二・八七	六一、六八八	六二・五五	五二、〇五二	四三・六二	
ボムベイよりの輸入	一	〇・〇一	二、〇〇一	四・六六	—	—	—	—	—	—	
輸出高内譯											
再輸出	八五六	一・一九	二、八三五	三・四二	三、四八七	四・一九	一、八六六	四・六九	一、七七〇	四・七五	
印度沿海諸港向輸出	九六二	二・四三	一、〇二一	二・五〇	一、三三〇	二・六六	三、〇三五	七・六〇	二、〇五三	五・五四	

印度國内糖業保護政策に依る斯業發展の結果たる近年に於ける外國糖輸入の著しき減少傾向は本年度も繼續した。輸入糖の總額五二、〇五二噸は僅か四ヶ年前の一九三〇—三一年度の輸入高二二七、八〇九噸の四分の一以下である。本年度に於いて糖價が安値追ひに下押したことも大量の先物取引を困難ならしめたことは否まれない。

同地に於ける爪哇白双の價格は一九三四年四月三日の初立會に一三—一一—〇ルピーの値がついたが、之が本年度の最高値となつた。即ち市況は間もなく續落歩調となり、四月末には一三—八—〇ルピー、五月末日には一三—四—六ルピー、六月末には一三—三—九ルピーとなつた。其後約三ヶ月にわたり徐々に上進し、九月第三週には、相場は一三—五—〇ルピー見當迄騰貴したが、再び下向

印度國内糖業保護政策に依る斯業發展の結果たる近年に於ける外國糖輸入の著しき減少傾向は本年度も繼續した。輸入糖の總額五二、〇五二噸は僅か四ヶ年前の一九三〇—三一年度の輸入高二二七、八〇九噸の四分の一以下である。本年度に於いて糖價が安値追ひに下押したことも大量の先物取引を困難ならしめたことは否まれない。

同地に於ける爪哇白双の價格は一九三四年四月三日の初立會に一三—一一—〇ルピーの値がついたが、之が本年度の最高値となつた。卽ち市況は間もなく續落歩調となり、四月末には一三—八—〇ルピー、五月末日には一三—四—六ルピー、六月末には一三—三—九ルピーとなつた。其後約三ヶ月にわたり徐々に上進し、九月第三週には、相場は一三—五—〇ルピー見當迄騰貴したが、再び下向き、九月末には一三ルピー恰度と激落し、其後一九三五年一月半迄同値に保合つたが同月第四週に一二—一四—〇ルピーと更に下押し、本年度の底値に落ちた。二月より三月第三週まではやゝ持直し氣味であつたが、三月二十六日の本年最終相場は一二—一四—〇ルピーと安値に終つた。

(三) ボムベイ

ボムベイ(シンドを除く)の砂糖輸入高は、一九三三—三四年度の九八、五四〇噸に對し、八〇、八九七噸と約一七、〇〇〇噸餘の減少であつた。ボムベイの爪哇糖、和蘭標本色相第二三號以上の入荷は七四、七四三噸より五七、八三〇噸と續減した。蘭領東アフリカよりの入荷も亦一五、二一八噸より一一、〇八八噸と減少した。但し甜菜糖の輸入は前年の四、八〇四噸より九、二一八噸と增加した。主として之は前年に全然輸入を見なかつた白耳義及び波蘭より夫々一、二九九噸及び一、〇五四噸の輸入があつたによる。和蘭本國よりの輸入も一、二七〇噸が一、七七六噸に增加した。一九三二—三三年度乃至一九三四—三五年度間のボムベイ砂糖輸入高の詳細は左表の如くである。

第十五表　一九三二—三三年度乃至一九三四—三五年度三ヶ年間に於けるボムベイ砂糖輸入高

輸入高仕出國別	一九三二—三三年度		一九三三—三四年度		一九三四—三五年度	
	數量(噸)	價額(ルピー)	數量(噸)	價額(ルピー)	數量(噸)	價額(ルピー)
北米合衆國	—	五	—	五二	—	二
獨逸	二四九	二六、九六八	五〇	六、〇〇〇	一一七	一一、八四五
佛蘭西	三八	三、七五〇	—	—	—	—
伊太利	—	二二	—	—	—	—
英本國	五四	一九、四六〇	三、五五九	三、六九、一五六	三、六二三	三、七九、二三六
和蘭	四三九	四六、三六二	一、二七〇	一、三五、六四五	一、七七六	一、七六、八五二
白耳義	二、三七九	二、四一、九七二	一〇	二、六五九	一、二九九	一、二七、〇三九
チエツコスロヴアキア	四三四	四九、六二三	—	—	七八	七、八七〇
香港	七八三	一、七〇、九七二	九二九	一、三六、五四六	九九九	一、三七、五三七
爪哇	八六、九七〇	八九、一五、一六九	七四、七四三	七五、〇二、〇六四	五七、八三〇	五七、七一、八三九
波蘭(ダンチヒを含む)	—	—	—	—	一、〇五四	一、〇五、六五五
露西亞	五、二五一	五、二九、八九三	—	三、三三、四七〇	二、一八〇	二、二七、一九〇
日本	二、六三六	二、八九、九五〇	二、七五〇		一一、〇八八	一〇、七七、三五四
蘭領東阿弗利加	一二、六五二	一二、七三、三二五	一五、二一八	一五、二九、六〇二	八五三	八五、七二七
其他	一八	五、〇五八	一一	一、八二三	八〇、八九七	八一、〇八、一四六
合計	一一一、九〇三	一、一五、七二、五二九	九八、五四〇	一、〇〇、一七、〇一七		
再輸出	五六〇	八三、七九六	一、一三五	一、九二、九三九	八二四	一、三三、七九四
沿岸(外國)貿易輸出	一二、七九〇	三二、九一、一五七	一一、六〇〇	三〇、五五、六二二	七、六二五	二〇、五三、七七〇

爪哇糖、和蘭標本色相第二三號以上の卸賣價格は、年度初には一ハンドレッド・ウエイト當り一四—四—〇ルピーであつたが、漸落して一九三四年十月には一三—一三—六ルピーとなつた。十一月には一三—一四—六ルピーと昂騰したが十二月には一三—七—〇ルピーと反落し、一九三五年一月

日本	二、六三六	二、八九、九五〇	二、七五〇	三、三三、四七〇	二、一八〇	二、七七、一九〇	二、二七、一九〇	一、三三、七九四	八五、七二七	一〇、七七、三五四	八二四	七、六二五	一、三三、七九四	二〇、五三、七七〇
蘭領東阿弗利加	一二、六五二	一二、七三、三二五	一五、二一八	一五、二九、六〇二	一一、〇八八	八五三	八一、〇八、一四六							
其他	一八	五、〇五八	一	一、八二三										
合計	一一一、九〇三	一、一五、七二、五二九	九八、五四〇	一、〇〇、一七、〇一七	八〇、八九七									
再輸出	五六〇	八三、七九六	一、一三五	一、九二、九三九		八二四								
沿岸(外國)貿易輸出	一二、七九〇	三二、九一、一五七	一一、六〇〇	三〇、五五、六二二		七、六二五								

爪哇糖、和蘭標本色相第二三號以上の卸賣價格は、年度初には一ハンドレッド・ウエイト當り一四―四―〇ルピーであつたが、漸落して一九三四年十月には一三―一三―六ルピーとなつた。十一月には一三―一四―六ルピーと昂騰したが十二月には一三―七―〇ルピーと反落し、一九三五年一月に一三―一〇―〇ルピーと上進した後、再び漸落して年度末には一三―四―〇ルピーとなつた。

(四) マドラス

第十六表は過去三ヶ年間に於けるマドラス州の(海路による)砂糖輸入高を示す。

第十六表　一九三二―三三年度乃至一九三四―三五年度間に於けるマドラス州砂糖輸入(海路による)高

	一九三二―三三年度		一九三三―三四年度		一九三四―三五年度	
	數量(噸)	價額(十萬ルピー)	數量(噸)	價額(十萬ルピー)	數量(噸)	價額(十萬ルピー)
和蘭標本色相第二三號以上 爪哇	四〇、八一七	四七・三五	四三、八五六	四五・六一	四七、五四七	四一・三二
セイロン	七六	〇・〇九	五	—	二	—
英本國	一〇、一七一	一〇・八二	九、九八二	一〇・四八	三六九	〇・三九
露西亞(南部地方)	二、三三三	二・六五	—	—	—	—
埃及	—	—	—	—	一、七〇〇	一・四四
其他	八〇	〇・一六	一九	〇・〇四	二九	〇・〇六
合計	五三、四七七	六一・〇七	五三、八六二	五六・一三	四九、六四七	四三・二一
和蘭標本色相第二三號未滿						

白耳義	—	—	—	—	—
海峽植民地	—	—	—	—	—
支那其他	—	—	—	二三	一四六
日本	—	—	—		
爪哇	—	—	—		
合計	—	—	—	二二	一四六
和蘭標本色相第一六號未滿	—	—	—		
爪哇	—	—	—		
其他	二	—	—		
合計	二	—	—		
糖蜜					
爪哇	一、八三一	一・〇二	—	—	—
其他	—	—	—	—	—
合計	一、八三一	一・〇二	—	—	—
總計	五五、三一〇	六二・〇九	五三、八八四	五六・一七	四九、七九三

爪哇白双の値段は一九三四年四月初め一ハンドレッド・ウェイト當り一三—一二—〇ルピーであつたが、同月第三週には一四—〇—〇ルピーへと騰り、やがて漸落歩調をたどり、小幅の往來の後、五月及び六月末には夫々一三—八—〇及び一三—五—六ルピーとなつた。七月第一週を過ぎて市況はやゝ堅調となり、同月第三週には一三—一二—〇ルピーと恢復したが、八月末には一三—六—〇ルピーと反落した。九月に入るや相場は一三—一二—〇ルピー及び一三—八—〇ルピー間を往來してゐたが、月末には一三—八—〇ルピーとなり、十月末の一三—二—〇ルピーへと續落し、十一月第三週には一三—〇—六ルピーと下押し、之が本年度の最低値となつた。やがてやゝ持直し同月末には一三—九—〇ルピーとなつたが、十二月に入るや又下押し、月末には一三—五—〇ルピーとな

爪哇白双の値段は一九三四年四月初め一ハンドレッド・ウエイト當り一三—一二—〇ルピーであつたが、同月第三週には一四—〇—〇ルピーへと騰り、やがて漸落歩調をたどり、小幅の往來の後、五月及び六月末には夫々一三—八—〇及び一三—五—六ルピーとなつた。七月第一週を過ぎて市況はやゝ堅調となり、同月第三週には一三—一二—〇ルピーと恢復したが、八月末には一三—六—〇ルピーと反落した。九月に入るや相場は一三—一二—〇ルピー及び一三—八—〇ルピー間を往來してゐたが、月末には一三—八—〇ルピーとなり、十月末の一三—二—〇ルピーへと續落し、十一月

第三週には一三—〇—六ルピーと下押し、之が本年度の最低値となつた。やがてやゝ持直し同月末には一三—九—〇ルピーとなつたが、十二月に入るや又下押し、月末には一三—五—〇ルピーとなつた。一九三五年一月に入つて反騰し、月末に一四—〇—〇ルピーと昂騰したが、二月及び三月は一三—一〇—〇ルピーに保合つた。

(五) ビルマ

本年度分蜜糖輸入高は前年に比し二、二二一噸を減少した。第十七表は一九三二—三三年度乃至一九三四—三五年度三ヶ年間に於けるビルマへの外國糖輸入高を示す。

第十七表　ビルマ砂糖輸入高

	一九三二—三三年度		一九三三—三四年度		一九三四—三五年度	
	數量（噸）	價額（十萬ルピー）	數量（噸）	價額（十萬ルピー）	數量（噸）	價額（十萬ルピー）
和蘭標本色相第一六號以上糖蜜	二六、三九二	二九・五七	一九、六四九	二一・三四	一七、四二八	一七・四一
	一八二	〇・一一	二一	〇・〇一	—	—
合計	二六、五七四	二九・六八	一九、六七〇	二一・三五	一七、四二八	一七・四一

爪哇白双和蘭標本色相第二三號以上品の價格は、一九三四年四月を通じて一ハンドレッド・ウエイト當り一四ルピーであつた。五、六月も堅調に保合ひ、ついで七月後半には一四—七—〇ルピーと上進したが、七月末には一三—一一—〇ルピーと反落し、八月及び九月半と同値に保合つた。九月第三週に再び一四ルピーに昂騰し、十月も同値であつた。十一月第一週に一三—六—〇ルピーに下り、十

二月末迄變らず、一九三五年一月に一三—一一—〇ルピーに騰り、二月より三月第二週に至る迄は同値保合ひ、三月後半に再び一三—六—〇ルピーに下押した。

(六) カチヤワール藩王國

カチヤワール沿海藩王國の砂糖輸入高は一九三二—三三年度及び一九三三—三四年度の夫々七三、三九〇噸及び六三、七八八噸に對し本年度は一一〇、九六三噸であつたが、糖蜜の輸入は前二ヶ年とも僅か五噸であつたが、本年度は皆無であつた。第十八表は一九三二—三三年度乃至一九三四—三五年度乃至一九三四—三五年度三ヶ年間に於けるカチヤワール諸港砂糖輸入高内譯

第十八表

	一九三二—三三年度		一九三三—三四年度		一九三四—三五年度	
	數量(噸)	價額(ルピー)	數量(噸)	價額(ルピー)	數量(噸)	價額(ルピー)
和蘭標本色相第二三號以上						
英本國	一	一四四	一、〇八五	一、〇八、五九二	二	一四九
海峽植民地	—	—	一	二〇一	一	一〇七
爪哇	五七、六〇五	六九、六九、〇六八	六〇、〇七八	六一、〇九、三五〇	一〇〇、五七〇	八八、七二、一八七
香港	二八	五、〇〇九	五八	一〇、三四六	一一五	一五、四二四
支那(香港及澳門を除く)	五六	五七八	一四	二、四三〇	一一	一、八〇〇
日本	三七	五、〇七五	六三〇	八五、五二二	一三二	一七、一六三
其他	—	—	五、八六〇	六、〇〇、九九〇	一四九	一三、八七八
合計	五七、七二七	六九、七九、八七四	六七、七二六	六九、一七、四三一	一〇〇、九七八	八九、二〇、五五九

和蘭標本色相第二三號以上	一	一四四	一、〇八五	一、〇八、五九二	二〇一	一	—	一四九	一三、八七八
英本國	—	五七、六〇五	六九、六九、〇六八	六〇、〇七八	六一、〇九、三五〇	一〇〇、五七〇	八八、七二、一八七
海峽植民地	—	二八	五、〇〇九	五八	一〇、三四六	一一五	一五、四二四
爪哇	五六	五七八	一四	二、四三〇	一一	一、八〇〇
香港	三七	五、〇七五	六三〇	八五、五二二	一三二	一七、一六三
支那（香港及澳門を除く）																							
日本																							
其他	—	—	五、八六〇	六〇、九九〇	一四九	一三、八七八
合計	五七、七二七	六九、七九、八七四	六七、七二六	六九、一七、四三一	一〇〇、九七八	八九、二〇、五五九
和蘭標本色相第二三號未滿																							
英本國	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
爪哇	五〇八	一、〇一、二二一	—	—	五六六	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
香港	八	一、七一〇	三	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
支那	一五	二、四九二	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
（香港及澳門を除く）																							
日本																							
合計	一五三	二六、四二〇	一九	二、九〇六	二、九八八	二、九八八	二、八三、〇四〇	一一一
甜菜糖	六八四	一、三一、八四三	二二	三、四七二	三、七三、二〇〇	四、〇〇〇	二、〇〇、〇〇〇	—
英本國	四、八八八	四、七六、〇一四	三、五三二	三、七三、二〇〇	二、九八八	二、八三、〇四〇
露西亞	二七二	二八、五三八	—	—	—	—	—	—
波蘭	—	—	—	—	—	—	—	—
其他	—	—	一、四九九	一、四九、九八〇	四、〇〇〇	六、九八八	四、八三、〇四〇	—
合計	五、一六〇	五、〇四、五五二	五、〇三一	五、二三、一八〇	二、九九七	二、五四、二八九
和蘭標本色相第一六號未滿																							
糖蜜	二一七	三四、九二一	六一一	六六、七〇四	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
總計	五	二、三〇一	五	不詳	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	六三、七九三	七六、五三、四九一	七三、三九五	七五、一〇、七八七	一一〇、九六三	九六、五七、九九九

本輯第「七」に指摘せる如く、外國糖の一部はカチャワール諸港よりヴイラガム及びダンドウカに於いて國内關税線を越えて英領印度へ輸入されてゐる。この輸入高は一九三三―三三年度及び一九三三―三四年度の夫々三四、三五七噸及び二六、三七〇噸に對し本年度は二七、五八〇噸であつた。第

十九表は一九三一—三二年度乃至一九三四—三五年度間に於けるカチヤワール諸港の砂糖(糖蜜を除く)輸入高及び國內關稅線を越えて英領印度へ輸入されたる額を示す。

第十九表

一九三一—三二年度乃至一九三四—三五年度四ヶ年間に於けるカチヤワール諸港砂糖輸入高及び國內關稅線經由、英領印度へ輸入されたる額

	一九三一—三二年度	一九三二—三三年度	一九三三—三四年度	一九三四—三五年度
カチヤワール諸港砂糖輸入高	九三、四五一噸	六三、七八八噸	七三、三九〇噸	一一〇、九六三噸
ヴイラムガム及びダンドウカ國內關稅線經由カチヤワールよりの英領印度砂糖輸入高	五九、五六四	三四、三五七	二六、三七〇	二七、五八〇

九　糖價月別變動

第二十表は印度主要諸港に於ける爪哇白双現物及びカウンポル市場に於ける國產分蜜糖(カウンポル特級)の月別平均價格を示す。後者はグール糖を精製せる周知の品質のものである故、同品の價格を爪哇糖の價格と對照せしめ、又印度に於ける新式製糖法による砂糖生產高の增加を考慮して、マラウラ分蜜糖一級品平均價格(カウムポル市場、工場渡し標準價格)をも同表に入れておいた。同品は印度新式工場製品中の模範的な第一級品である。

第二十表

一九三四—三五年度爪哇白双(現物)及び國產分蜜糖の一モウンド當月別平均價格

	カルカッタ	ラングーン	ボムベイ	カラチ	マドラス	カウンポル特級糖(カウンポル市場工場渡値段)	マラウラ分密糖一號(カウンポル市場工場渡値段)
	ルピー アナ パイ	ルピー アナ パイ	ルピー アナ パイ	ルピー アナ パイ	ルピー アナ パイ	ルピー アナ パイ	ルピー アナ パイ

ポル特級)の月別平均價格を示す。後者はグール糖を精製せる周知の品質のものである故、同品の價格を爪哇糖の價格と對照せしめ、又印度に於ける新式製糖法による砂糖生産高の增加を考慮して、マラウラ分蜜糖一級品平均價格(カウムポル市場、工場渡し標準價格)をも同表に入れておいた。同品は印度新式工場製品中の模範的な第一級品である。

第二十表　一九三四—三五年度爪哇白双(現物)及び國産分蜜糖の一モウンド當月別平均價格

	カルカッタ	ラングーン	ボムベイ	カラチ	マドラス	カウンポル特級糖(カウンポル市場工場渡値段)	マラウラ分蜜糖一級(カウンポル市場工場渡値段)
	ルピー アナ パイ	ルピー アナ パイ	ルピー アナ パイ	ルピー アナ パイ	ルピー アナ パイ	ルピー アナ パイ	ルピー アナ パイ
一九三四年四月	一〇 一 〇	一〇 一〇 〇	一〇 五 〇	九 一五 〇	一〇 三 〇	八 一一 〇	九 二 〇
五月	九 一五 〇	九 一五 〇	一〇 四 〇	九 一三 〇	一〇 〇	九 〇	九 二 〇
六月	九 一二 〇	九 一四 〇	一〇 二 〇	九 一二 〇	九 一三 〇	八 一五 〇	八 一一 〇
七月	九 一二 〇	九 一三 〇	一〇 四 〇	九 一二 〇	一〇 〇	九 〇	九 一 〇
八月	九 一四 〇	九 一五 〇	一〇 二 〇	九 一二 〇	九 一五 〇	九 〇	八 一五 〇
九月	九 一三 〇	九 九 〇	一〇 〇 〇	九 一一 〇	一〇 〇	九 一 〇	九 一 〇
十月	九 一〇 〇	一〇 一 〇	一〇 一 〇	九 八 〇	九 一三 〇	九 一 〇	八 一一 〇
十一月	九 八 〇	九 一五 〇	一〇 一 〇	九 八 〇	九 一一 〇	九 一 〇	八 一一 〇
十二月	九 五 〇	九 一〇 〇	九 一三 〇	九 八 〇	九 一三 〇	九 一 〇	八 一四 〇
一九三五年一月	九 一一 〇	九 一一 〇	九 一 〇	九 九 〇	一〇 〇	九 一 〇	八 一七 〇
二月	九 九 〇	九 一三 〇	一〇 一 〇	九 一二 〇	一〇 〇	九 一 〇	八 一四 〇
三月	九 九 〇	九 一〇 〇	九 一 〇	九 一〇 〇	一〇 〇	八 一五 〇	八 八 〇

十　爪哇糖業界概觀

(一)　爪哇糖業概況

一九三四年に爪哇糖業は再び思切つた縮少をなした。一九三二年及び一九三三年夫々九九及び一六六工場が作業したに對し、本年度は僅か四七工場であつた。收穫面積は前年の二〇八、九四七ヱーカーに對し九三、六一三ヱーカーであつた。收穫甘蔗總量は昨年度の一一、〇八八、六六二噸に對し五、

一五二、一二二噸であつた。一エーカー當り甘蔗收穫高平均は五五・〇一噸、報告中の一區域當り最高收穫高は六七・一九噸、最低は四七・〇九噸であつた。

甘蔗の含糖率は良好で、平均歩留一二・三五に達した。一區域當り最高歩留は一三・四九%、最低は一〇・五三%であつた。同じくエーカー當り平均産糖高は昨年の一五、六九三封度に對し一七、三四二封度、最低は一二、九二二封度に對し一三、七三三封度であつた。一工場に付いての最高産糖高は、一エーカー當り一九三三年度の一八、一六四封度に對し一八、〇五八封度であつた。

一九三四年度爪哇産糖實績左の如し。

白双	五四二、六一七瓲
中双	八九、一六八
赤双	一四、四四〇
セントリ貢粉	二〇
合計	六四六、二四五
一九三三年度生産高	一、四〇一、三二七
一九三二年度生産高	二、六一〇、五〇〇

第二十一表はプリンセン・ヘアリッヒ氏の發表せる所に隨ひ、一九二五年度乃至一九三四年度間の爪哇に於ける作業工場數及び甘蔗植付面積を示す。

第二十一表　爪哇に於ける甘蔗植付面積及び作業工場數

作業工場數	甘蔗植付面積（エーカー）	一エーカー當甘蔗收穫高（噸）
一七九	四三九、六九五	四三・一九

一九三三年度生産高　一、四〇一、三二七
一九三二年度生産高　二、六一〇、五〇〇

第二十一表はプリンセン・ヘアリッヒ氏の發表せる所に隨ひ、一九二五年度乃至一九三四年度間の爪哇に於ける作業工場數及び甘蔗植付面積を示す。

第二十一表　爪哇に於ける甘蔗植付面積及び作業工場數

	作業工場數	甘蔗植付面積（エーカー）	一エーカー當甘蔗收穫高（噸）
一九二五年度	一七九	四三九、六九五	四三・一九
一九二六年度	一七八	四四四、〇三八	四二・〇八
一九二七年度	一七八	四五五、八〇六	四六・〇四
一九二八年度	一七八	四八一、八六三	五二・五三
一九二九年度	一七九	四八六、七九九	四九・五九
一九三〇年度	一七九	四八九、九八四	五一・五四
一九三一年度	一七八	四九三、七二一	五二・七〇
一九三二年度	一六六	四二三、九二四	五三・二五
一九三三年度	九九	二〇八、九四七	五二・二一
一九三四年度	四七	九三、六一三	五五・〇一

（二）砂糖市況

英國精製糖との競爭下にある仕向地別、賣値引下政策を本年度は外國糖との競爭ある總べての市場に擴大した。之は米國産グラニュー糖が若干販賣せらるゝ支那市場に對して著しかつた。日本、新西蘭及び香港の精糖業者向中双にも値引が行はれた。內日本及び新西蘭向輸出は一九三三年度夫々一八二、八〇七噸及び六三、三〇一噸なりしに對し、一四二、六一一噸及び六一、六五三噸であつた。英國向「新種糖」の取引が安値で相當活潑に行れた。卽ち年額にして約八〇、〇〇〇噸に達した。

年初、糖價は左の如くであつた。

	盾
白双	
輸出仕向地指定なきもの	五・五〇
印度西海岸向	四・〇〇
印度東海岸向	四・一〇
支那向	四・七五
中双	
輸出仕向地指定なきもの	五・一〇
支那向	四・五〇
精糖業者向	三・六〇

一月末にかけて支那を除く總べての仕向地に對する賣値が引上げられ、二月初には更に昂騰した。唯一の例外は支那向中双の賣値で、若干の引下げを見た。小量の白双が歐洲向三盾九五で賣約され二三週後には更に之より多少安値で若干賣約を見た。三月初商内閑散となり、印度向白双及び日本向中双賣値は若干低落し、印度向四盾一〇及び日本向中双三盾八五で相當の取引があつた。四月早々浦鹽へ白双五、〇〇〇噸が四盾一〇で、日本へ中双が三盾五五で、印度へ白双が四盾〇〇で賣約された。

其後市況は極めて閑散となり、賣値は相當引下げられた。その一因は印度市場へ波蘭分蜜糖及び英國精製糖の賣物が出たことにあつた。三月初めの相場は印度向白双三盾七〇、支那向四盾五〇、日本向中双三盾四〇であつた。

ニヴアスの賣約高總計は三月末迄で僅か一六七、八四三噸であつた。其後歐洲に於ける旱魃の報道を入れて、ニヴアスは其賣値を引上げ、英領印度及び支那向に大量を賣約し、七月一日爪哇糖賣約高

向中双賣値は若干低落し、印度向四盾一〇及び日本向中双三盾八五で相當の取引があつた。四月早々浦鹽へ白双五、〇〇〇噸が四盾一〇で、日本へ中双が三盾五五で、印度へ白双が四盾〇〇で賣約された。

其後市況は極めて閑散となり、賣値は相當引下げられた。その一因は印度市場へ波蘭分蜜糖及び英國精製糖の賣物が出たことにあつた。三月初めの相場は印度向白双三盾七〇、支那向四盾五〇、日本向中双三盾四〇であつた。

ニヴアスの賣約高總計は三月末迄で僅か一六七、八四三噸であつた。其後歐洲に於ける旱魃の報道を入れて、ニヴアスは其賣値を引上げ、英領印度及び支那向に大量を賣約し、七月一日爪哇糖賣約高總計は二六〇、六九四噸となつた。更に英領印度諸仕向地に大量の取引あり、八月一日現在輸出高總計は四一八、三七三噸となつた。

取引は以後次第に活潑となり、支那、英領印度、日本及び新西蘭向に大量の取引が高値で出來た。然しやがて閑散化し、買氣をよぶ爲に多少の値引をせざるを得なかつた。

九月に入つて、米國グラニュー糖の支那市場賣込の報あり、ニヴアスは同地向賣値を更に引下げた。その結果賣約高の増進を見るを得た。然し一般に市況は極めて閑散裡に、各仕向地値段は續落をたどり、十一月初めには支那向三盾二五、印度西海岸向二盾八五、スエズ以西二盾六五、日本向中双二盾八五で賣約した。この値は本年度の最低値であつて、其後漸く賣値の全般的引上げを見るを得て、同月末には印度西海岸向三盾一五、支那向三盾四〇、日本向中双三盾〇〇となつた。

年末の賣値左の如し。

	盾
白双	
上海向	三・二〇
香港向	三・三〇
印度西海岸向	三・一〇
印度東海岸向	三・一五
中双	

日本向　三・〇〇

本年度車糖の取引は皆無、赤双賣約高は僅かに一三、〇〇〇噸であつた。一九三四年十二月末現在ニヴアス砂糖總賣約高左の如し。

白双	八七三、〇〇〇瓲
中双	四二七、五〇〇
赤双	一三、〇〇〇
合計	一、三一三、五〇〇

一九三五年度初に於ける賣値左の如し。

白双	
印度西海岸向	三・一五盾
印度東海岸向	三・〇二
上海向	三・二五
香港向	三・五五
中双	
日本向	三・〇〇

一月には主として英領印度向であつたが、右の賣値より可成上値で大量の賣約を見た。一月末賣約高は一、五〇九、六六一噸に及んだが、以後取引閑散となり、一九三四年四月一日より一九三五年三月三十一日に至る一年間の總賣約高は一、六四六、三二四噸であつた。

香港向	三・五五
中双	
日本向	三・〇〇

一月には主として英領印度向であつたが、右の賣値より可成上値で大量の賣約を見た。一月末賣約高は一、五〇九、六六一噸に及んだが、以後取引閑散となり、一九三四年四月一日より一九三五年三月三十一日に至る一年間の總賣約高は一、六四六、三二四噸であつた。

(三) 需給狀態

一九三五年四月一日現在爪哇糖需給狀態左の如し。

一九三四年四月一日現在、在荷高(推定)	二、四九一、一七九噸
一九三四年度產糖高	六四六、二四五
總供給高	三、一三七、四二四
一九三四年四月乃至一九三五年三月間輸出高	一、一八七、五八〇
島內消費	三二八、五六〇
計	一、五一六、一四〇
一九三五年四月一日現在供給殘高	一、六二一、二八四
一九三四年同日	二、四九一、一七九
一九三三年同日	二、四八六、四〇八

(四) 砂糖輸出高

第二十二表は一九三四—三五年度爪哇糖仕向地別輸出高を前二ヶ年との比較に於いて示す。

第二十二表　一九三二—三三年度乃至一九三四—三五年度

爪哇糖輸出高

仕向地	一九三四—三五年度	一九三三—三四年度	一九三二—三三年度
和蘭	二四、三八六噸	一七、五五九噸	二、一五九噸
英吉利	七七、二六四	四八、八一一	二七〇、一四四
獨逸	一六二	二、七一四	四一八
佛蘭西	二、七八二	二、四一七	一九、四一五
白耳義	五〇	一、四三七	二、五二九
ポートサイド以西埃及	三〇、六一八	六二、〇五三	三六、七一九
伊太利	五八三	三、〇四八	二八八
丁抹	一、四七二	九一四	二、〇三二
歐洲向合計	八、〇一五	—	—
北米合衆國太西洋岸向	一四五、三三二	一三八、九五三	三三三、七〇四
北米合衆國太平洋岸向	—	—	—
米國向合計	二五二	八一八	一、八一七
アデン	二五二	八一八	一、八一七
阿弗利加	一三、七五二	七、九八一	二、七四二
アラビヤ	五、七一六	五、八二九	六、三六五
波斯	二、二七七	一、五一〇	八九九
	三三四	一一一	五一

新嘉坡	五八、五五三	四八、八六四	五八、九三三
英領馬來	二四、三二一	二〇、九一一	一七、四七五
ピナン	三五四	一、九二三	一一、九三七
英領印度	四〇二、〇七六	三二〇、六三九	四二五、七二七
暹羅	三〇、五八〇	二九、四四二	三三、一八一
香港	二〇三、三六〇	一八七、八五四	二〇四、一〇〇
支那	七八、一一三	八三、三一二	九一、〇二二
日本	一二三、七六七	一三七、一七七	六二、二六二
臺灣	一五、四八三	二二、三八七	一五、六八八
朝鮮	一一、五〇九	二〇、〇一一	四、〇〇二
濠州	一七八	一五三	一五九
新西蘭	六二、二三二	七〇、三三八	四六、四八七
西貢	一、四七〇	二、九六九	一、一五一
浦鹽	五、五九二	—	一一、〇九二
大連	五五八	三、四四〇	一三〇
比律賓	—	—	三四
ポリネシヤ	一、二三七	一、五三五	一、三二九
英領北ボルネオ	四五七	五二九	七五九
葡領チモル	六二	一〇〇	三九二
其他	一五	一一八	三五
スエズ以東合計	一、〇四一、九九六	九六七、一三三	九九五、九五二
總計	一、一八七、五八〇	一、一〇六、九〇四	一、三三一、四七三

國洲向合計	一四五、三三二	一三八、九五三	一三三、七〇四
北米合衆國太西洋岸向	—	—	—
北米合衆國太平洋岸向	二五二	八一八	一、八一七
米國向合計	二五二	八一八	一、八一七
アデン	一三、七五二	七、九八一	二、七四二
阿弗利加	五、七一六	五、八二九	六、三六五
アラビヤ	二、二七七	一、五一〇	八九九
波斯	三三四	一一一	五一

一九三四—三五年度スエズ以西積出は前年度の一三九、七七一噸に對し、一四五、五八四噸であつた。英領印度向輸出は一九三二—三三年度及び一九三三—三四年度の夫々三二〇、六三九噸及び四二五、七二七噸に對し本年度は四〇二、〇七六噸であつた。

香港及び支那各地向輸出は前二ヶ年の夫々二七一、一六六噸及び二九五、一二二噸に對し二八一、四七三噸であつた。

圖表Dは爪哇糖生産高及び爪哇糖英領印度向輸出高を過去十ヶ年にわたり示したものである。

(五) 將來の展望

一九二九年以後に起つた糖價の崩落と砂糖市場の縮少の爲に、爪哇糖業こそ恐らく他の何れの國よりも最も打擊を受けたものであらう。玖瑪の糖業も之に劣らぬ困難に遭遇したが、然し彼には終始合衆國に於ける特惠的地位が與へられて、其の産糖の大半を確實に賣捌くを得て來た。爪哇には何らかゝる有利な點がない。否、印度及び日本に於ける製糖業の發展により嘗つては其の最も利益ある市場であつたものを失つた。他の砂糖輸出國がほゞ其の滯荷を一掃せる折に當つて、爪哇はその四圍の狀勢の惡化により尙ほ多量の滯荷を抱へてゐる始末である。

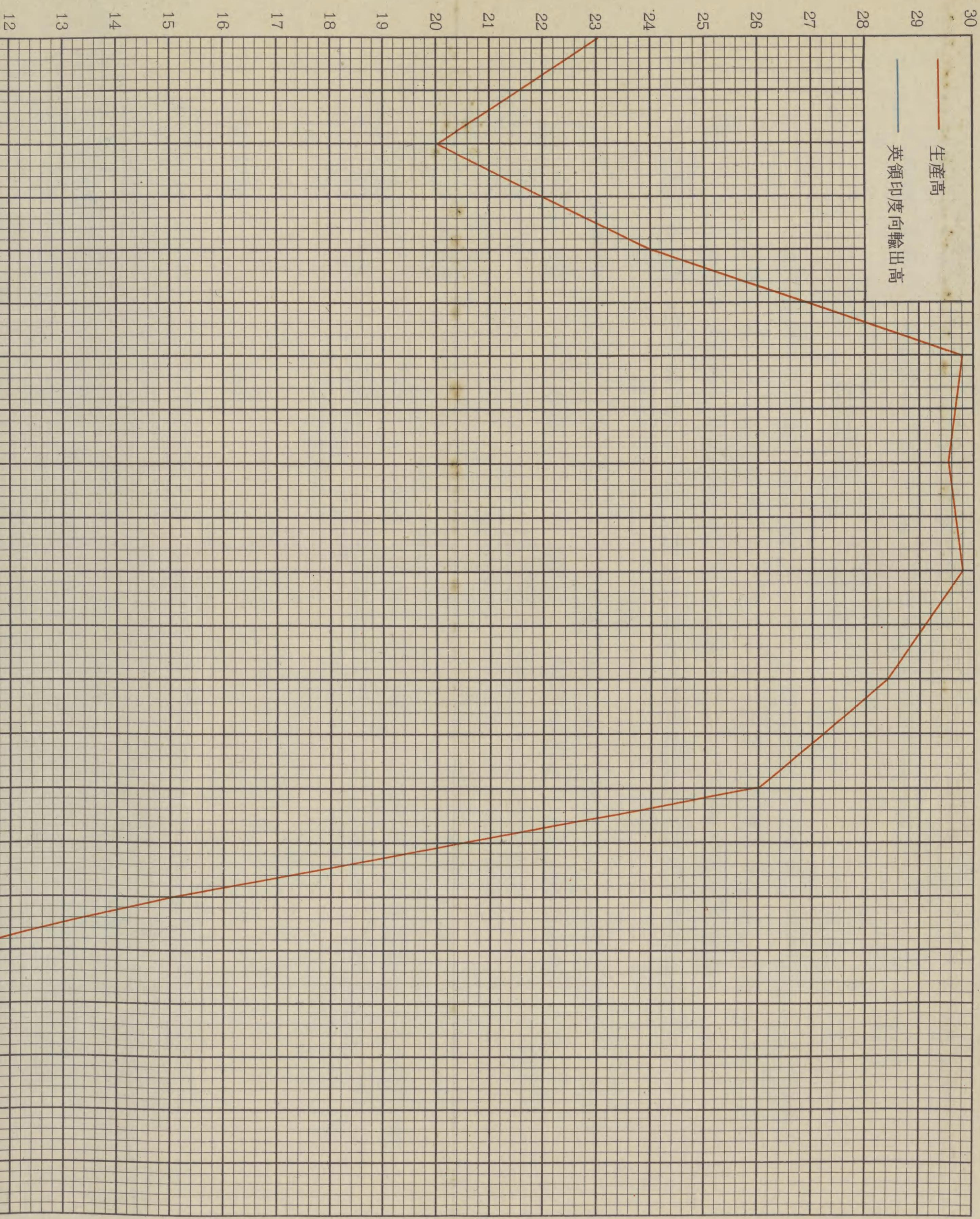
かゝる苦況を打開せんと、爪哇の製糖業者は政府の援助を得て思切つた限産案其他、業界甦生に役立つべき諸案を實行中である。一九三九年に至る期間を其の甦生期と定め徹底的な案が樹立され、次年度産糖に對する植付面積を産糖四五五、〇〇〇噸程度に制限した。來期輸出及び島内消費豫想を一、四〇〇、〇〇〇噸とすれば、一九三六年四月一日現在在荷は七〇〇、〇〇〇噸に減少し、今一年間

ある市場であつたものを失つた。他の砂糖輸出國がほゞ其の滯荷を一掃せる折に當つて、爪哇はその四圍の狀勢の惡化により尙ほ多量の滯荷を抱へてゐる始末である。

かゝる苦況を打開せんと、爪哇の製糖業者は政府の援助を得て思切つた限産案其他、業界甦生に役立つべき諸案を實行中である。一九三九年に至る期間を其の甦生期と定め徹底的な案が樹立され、次年度産糖に對する植付面積を産糖四五五、〇〇〇噸程度に制限した。來期輸出及び島內消費豫想を一、四〇〇、〇〇〇噸とすれば、一九三六年四月一日現在在荷は七〇〇、〇〇〇噸に減少し、今一年間

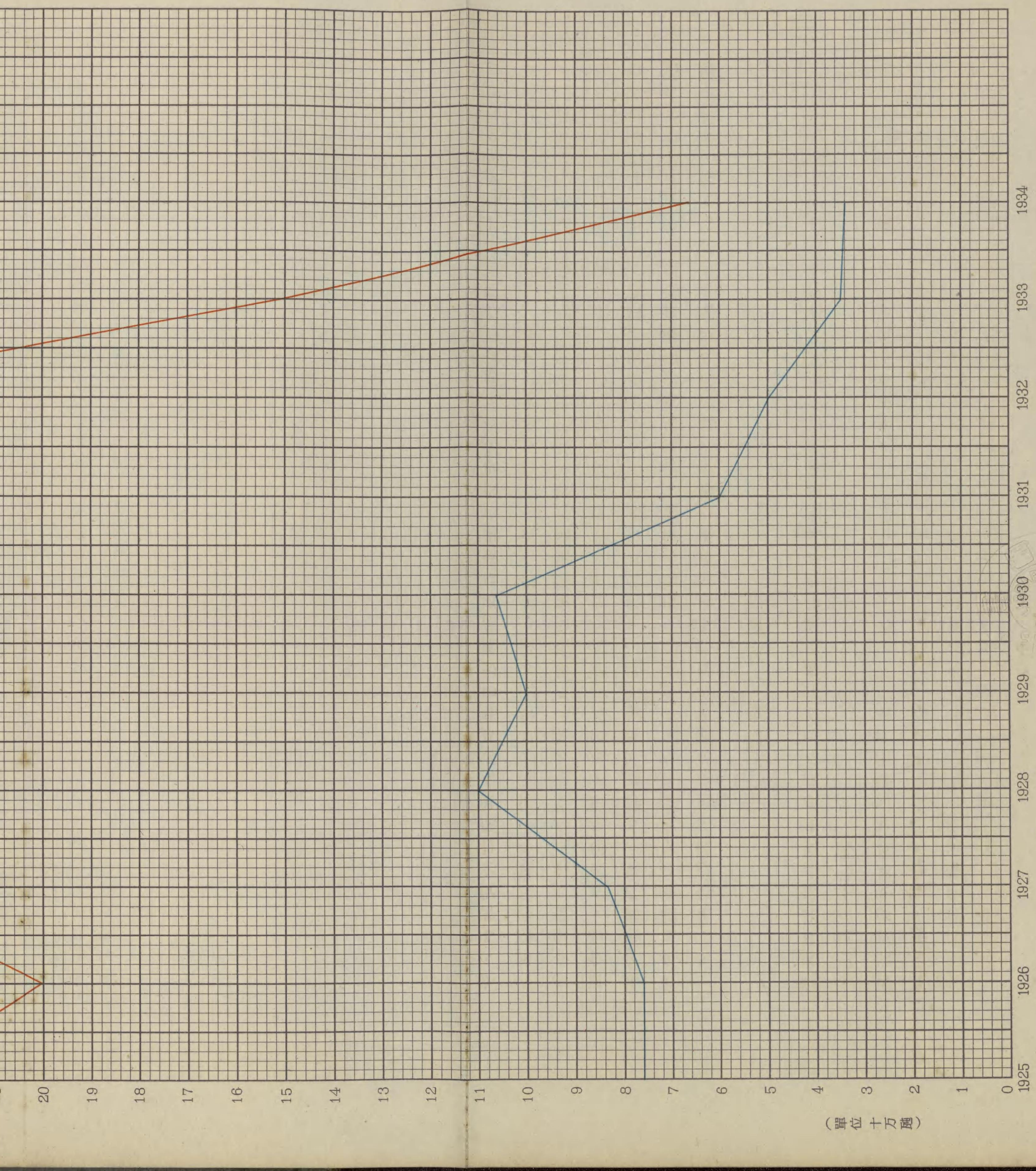
圖十

の四圍の狀勢の惡化により尚ほ多量の滯荷を抱へてゐる如きである。爪哇の製糖業者は政府の援助を得て思切つた限産案其他、業界甦生に役かゝる苦況を打開せんと、爪哇の製糖業者は政府の援助を得て思切つた限産案其他、業界甦生に役立つべき諸案を實行中である。一九三九年に至る期間を其の甦生期と定め徹底的な案が樹立され、次年度産糖に對する植付面積を産糖四五五、〇〇〇噸程度に制限した。來期輸出及び島内消費豫想を一、四〇〇、〇〇〇噸とすれば、一九三六年四月一日現在在荷は七〇〇、〇〇〇噸に減少し、今一年間



圖表D　爪哇砂糖生産高及び同英領印度向輸出高（一九二五年乃至一九三四年）

年乃至一九三四年)


(單位十万磅)
0
1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
1925
1926
1927
1928
1929
1930
1931
1932
1933
1934

限産を强行することにより滯荷を一掃し得る豫想である。

一般に各工場の産糖はその推定能力の五〇%に止め、個人所有の小工場には多少斟酌をする。かくて爪哇の年産額は、其の販賣可能と推定される一、五〇〇、〇〇〇噸に制限されることゝ豫想される。工場の過剰能力は産糖增加に充分の根據が出來た時利用される筈である。

限産を强行することにより滯荷を一掃し得る豫想である。

一般に各工場の産糖はその推定能力の五〇%に止め、個人所有の小工場には多少斟酌をする。かくて爪哇の年産額は、其の販賣可能と推定される一、五〇〇、〇〇〇噸に制限されることゝ豫想される。工場の過剰能力は産糖增加に充分の根據が出來た時利用される筈である。

十一　玖瑪糖業界概觀

一九三四年度に於ける玖瑪糖取引は合衆國に於ける同糖に對する關稅の引下げ及び、農事調整法の諸規定を砂糖に適用した彼のジョーンズ・コスチガン法案を主とせる砂糖に關する新法例等の如き、主として政治的現象の影響を受くることが多かつた。右の砂糖統制法は、玖瑪、ポルトリコ、比律賓、布哇及びヴァージン群島を包含せる砂糖供給割當制を施行する權限を農務長官に附與した。

一月、玖瑪糖業者は合衆國へ輸入せらるゝ玖瑪糖關稅に相當の引下げあるものと豫想し其の賣物を出さなかつたので、取引は主として免稅糖について行はれた。一月中の糖價推移左の如し。

發會	一・二五
高値	一・一六
安値	一仙二〇（一封度ニ付）

二月八日大統領ルーズヴェルトは砂糖を重要商品に加へ且つ國內消費向砂糖供給に割當制を施行し、尙ほ玖瑪糖の爲に關稅引下をなさん旨の敎書を議會に送つた。糖價は之が爲動搖した。卽ち

高値　一仙四二
安値　一・二五
平均　一・三三

三月は免税糖の賣物殺到し、市況は下押した。同月砂糖法案が米國上下兩院に提出された。同月の糖價は

高値　一仙三二
安値　〇・九五

四月は前月に引續き低落歩調をたどつた。卽ち

高値　〇仙九五
安値　〇・七〇

三月國會に提出された砂糖法案は終に(一九三四年)五月九日大統領ルーズヴェルトの署名を見た。同時に玖瑪糖關税率が一封度に付二仙〇〇より一仙五〇に引下げられ、三十日後卽ち(一九三四年)六月九日より施行せられた。玄人筋及び精糖業者相手に玖瑪糖の商内が相當あり、値段も大體免税糖の標準以上であつた。又一封度に付〇仙五〇の加工税が、其の産地を問はず合衆國内にて販賣せらるゝ限りすべての精製糖に課せられることになつた。その歳入は合衆國本國及び屬領の甘蔗及び甜菜栽培者に分配されることになり、關税引下と同時に施行された。五月の糖價は

高値　〇仙八五
安値　〇・七五

六月に入つても玖瑪糖業者は關税の再引下を豫想して賣澁りの態度を續けた。砂糖市況も玖瑪糖輸入關税の再引下豫想を反映し、玖瑪糖C&F一仙五二の買唱へであつた。之は現行關税一仙五〇として三仙〇二となる。同月農務長官は砂糖統制法により與へられたる權限により比律賓、ポルトリコ、布哇及びヴアージン群島等に對する割當額を決定發表した。

六月九日より施行せられた。玄人筋及び精糖業者相手に玖瑪糖の商内が相當あり、値段も大體免税糖の標準以上であつた。又一封度に付〇仙五〇の加工税が、其の産地を問はず合衆國内にて販賣せらるゝ限りすべての精製糖に課せられることになつた。その歳入は合衆國本國及び屬領の甘蔗及び甜菜栽培者に分配されることになり、關税引下と同時に施行された。五月の糖價は

高値　〇仙八五

安値　〇・七五

六月に入つても玖瑪糖業者は關税の再引下を豫想して賣澁りの態度を續けた。砂糖市況も玖瑪糖輸入關税の再引下豫想を反映し、玖瑪糖C&F一仙五二の買唱へであつた。之は現行關税一仙五〇として三仙〇二となる。同月農務長官は砂糖統制法により與へられたる權限により比律賓、ポルトリコ、布哇及びヴァージン群島等に對する割當額を決定發表した。

七月中相場は大した變動なく、玖瑪糖九六度標準、一仙五〇の關税込みにて、高値三仙二二、安値三仙一五であつた。精糖業者はその時の免税糖相場にて若干買付けたけれども、玖瑪側は概ね、關税引下を豫想して賣物を出さなかつた。東部及び南部に於ける精糖業者がポルトリコ糖を大量買付けたので、同島に對する割當額は滿了となり、業者は次第に玖瑪糖に買向ふ氣配を示して來た。尤も當時合衆國の保税倉庫には三五〇、〇〇〇噸の玖瑪糖の在庫があつた。八月の精糖業者の買付値段はC&F一封度一仙七五であつたから直積税込み三仙二五に等しい。

精糖業者は七、八月に屢々、割當額超過の比律賓糖を一九三五年度使用分として貯藏しておく目的にて買付けた。八月二十四日大統領は米玖通商條約に署名した。之により玖瑪糖關税は九六度粗糖一封度〇仙九〇に引下げられ九月四日より施行された。九月中玖瑪糖の價格は變化なく、主としてニューヨーク及びノーフォーク在庫の玖瑪糖が極めて大量引取られた。精糖業者の需要多く、自然價格も發會にはC&F一仙九六であつたが、漸騰して月末には玖瑪糖C&F二仙〇七に昂騰した。

十月に入り玖瑪糖一三〇、〇〇〇噸がC&F二仙一八1/2にて精糖業者との間に商内成立し、十一月上旬には市價は税込み三仙〇〇となつたが、ついで引緩み十一月末には税込み二仙八〇にて取引せられた。

十一月二十日に十二月溶糖用として玖瑪直積がC&F二仙一八1/2にて引取られた現物に關する限り市況は變調模様となり、十一月末直積C&F値段は二仙八〇であつたのが、十二月第一週には税込二仙九七1/2となつた。此等の商内により在庫の玖瑪糖は殆んど消化し盡され、市場は玖瑪糖一月用積出税込み二仙六〇が規準となつた。同値で諸精糖業者は大量買付けたが、玖瑪糖手持筋は此値にて賣るを欲せず、倉入したものもあつた。

十二月十九日農事調整局は國内消費用玖瑪糖一九三四年度輸入割當額を粗糖計算一、九〇一、七五二短噸とする旨公表し、同日以後合衆國へ輸入せられ右を超過する額は保税扱にて保管すべきこ、となつた。玖瑪糖に對しては精糖業者の買氣殆んどなく、僅に最近到着物小量がC&F一仙七〇にて買付けられたに過ぎない。一九三五年一月紐育渡しC&F粗糖平均値段は、前年同月に於ける一封度當り一仙二〇に對し一仙八九となり、二三月に於ける粗糖平均値段は、夫々一仙九九及び二仙一三であつた。

一方玖瑪大統領は、一九三五年度玖瑪産糖を二、三一五、〇〇〇長噸に制限する旨の法令に一九三四年十二月十八日署名した。合衆國向輸出割當一、四五六、五四九噸、其他諸國向七〇八、四五一噸と限定し、島内消費向割當を一五〇、〇〇〇噸とした。

一九三四年度(暦年)玖瑪糖輸出高は粗糖計算二三四四、九四七長噸に達した。前年の二、三四一、一一〇噸に比較すれば三、八三七噸の増加である。

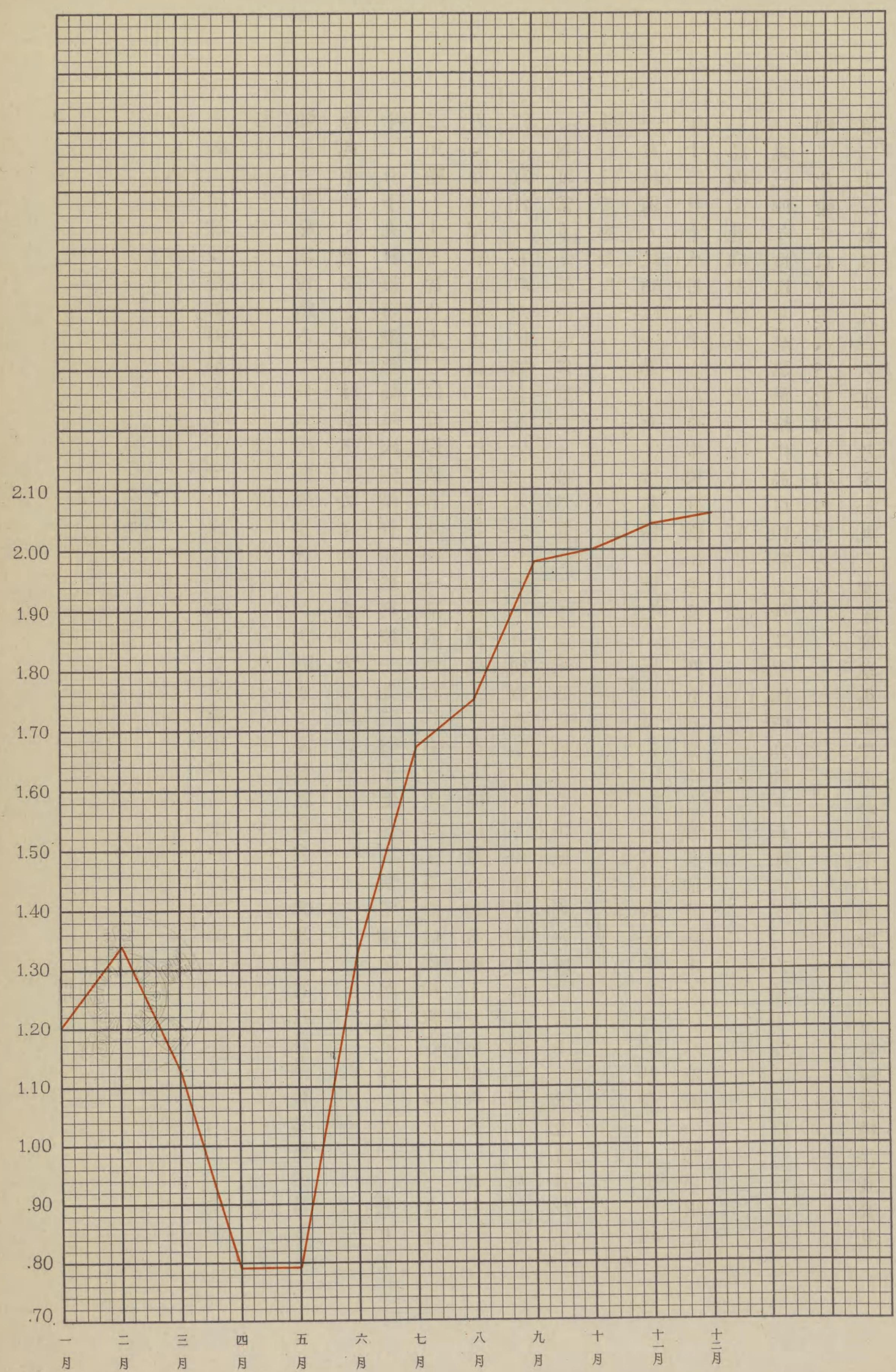
第二十三表は一九二六年度乃至一九三四年度玖瑪糖生産高、作業工場數及び合衆國砂糖消費高其他を示す。

圖表E　一九三四年紐育市場に於ける粗糖C&F月別平均價格(一封度建仙)

年十二月十八日署名した。合衆國向輸出割當一、四五六、五四九噸其他諸國向七〇八四五一噸と限定し、島内消費向割當を一五〇、〇〇〇噸とした。

一九三四年度(暦年)玖瑪糖輸出高は粗糖計算二三四四、九四七長噸に達した。前年の二、三四一、一一〇噸に比較すれば三、八三七噸の増加である。

第二十三表は一九二六年度乃至一九三四年度玖瑪糖生産高、作業工場數及び合衆國砂糖消費高其他を示す。



圖表E　一九三四年紐育市場に於ける粗糖C&F月別平均價格(一封度建仙)

第二十三表　一九二六年度乃至一九三四年度玖瑪糖生產高

	作業工場數	產糖高（粗糖計算）	北米合衆國砂糖消費高（精糖計算）	北米合衆國消費高內譯中に占める玖瑪糖百分比
一九二六年度	一七七	四、八八五、〇〇〇長噸	五、六七一、〇〇〇長噸	五八%
一九二七年度	一七七	四、五〇五、〇〇〇	五、二九七、〇〇〇	五五

第二十三表　一九二六年度乃至一九三四年度玖瑪糖生産高

	作業工場數	産糖高(粗糖計算)	北米合衆國砂糖消費高(精糖計算)	北米合衆國消費高内譯中に占める玖瑪糖百分比
一九二六年度	一七七	四、八八五、〇〇〇長噸	五、六七一、〇〇〇長噸	五八%
一九二七年度	一七七	四、五〇五、〇〇〇	五、二九七、〇〇〇	五五
一九二八年度	一七二	四、〇一二、〇〇〇	五、五四三、〇〇〇	四七
一九二九年度	一六三	五、一五六、〇〇〇	五、八一一、〇〇〇	五二
一九三〇年度	一五七	四、六七二、〇〇〇	五、五九九、〇〇〇	四四
一九三一年度	一四〇	三、一二二、〇〇〇	五、四七五、〇〇〇	三七
一九三二年度	一三三	二、六〇三、〇〇〇	五、二一四、〇〇〇	二八
一九三三年度	一二五	一、九九五、〇〇〇	五、二七〇、〇〇〇	二五
一九三四年度	一六六	二、二七四、〇〇〇	五、一三五、〇〇〇	二四

十二　一九三四—三五年度世界糖業界の概觀

最近の産糖豫想に據れば、一九三四—三五年度世界砂糖生産高は前年度の二五、五二一、〇〇〇瓲に對し二四、九〇四、〇〇〇瓲と推定される。かくて産糖高は前年度より六一七、〇〇〇瓲の減少となる。第二十四表は、一九三四—三五年度及び一九三四—三五年度の各國砂糖生産高(甜菜及び甘蔗)を示す。

第二十四表　世界砂糖生産高(産糖年度は九月—八月)(粗糖計算、單位千瓲)

A 甜菜糖

(a) 歐洲

	一九三四—三五年度	一九三三—三四年度
獨逸	一、六七三	一、四二八
ダンチツヒ	三三	二六
チエツコスロヴアキア	六三八	五一七
墺地利	二二三	一七〇
匈牙利	一二〇	一三六
佛蘭西	一、二二三	九四六
白耳義	二七〇	二四七
和蘭	二四三	二九〇
波蘭	四四七	三四二
丁抹	九〇	二五四
瑞典	二七二	三〇五
伊太利	三四五	三〇〇
西班牙	三四九	二四二
ユーゴースラヴイア	六三	七四
羅馬尼亞	一〇七	一四五
勃牙利亞	二	四五
瑞西	一〇	九
英本國	六九四	五二三
愛蘭	七五	三五
フインランド	一二	七
ラトヴイア	六二	三

瑞典	二七二	三〇五	三〇〇	二四二	七四
伊太利	三四五	三〇〇	二四二	七四	一四五
西班牙	三四九	二四二	七四	一四五	四五
ユーゴースラヴィア	六三	七四	一四五	四五	
羅馬尼亞	一〇七	一四五	四五		
勃牙利亞	二	四五			
瑞西	一〇	九			
英國	六九四	五二三			
愛蘭	七五	三五			
フインランド	一二	七			
ラトヴイア	六一	三三			
リツアニア	一七	九			
土耳古	六六	七八			
(ヨーロッパ及びアジア)					
アゾレス	三	三			
歐洲合計	七、〇三六	六、一六四			
(露西亞を除く)露西亞	一、四六〇	一、二〇四			
全歐羅巴合計	八、四九六	七、三六八			
(b)亞米利加					
北米合衆國	一、一七八	一、六四七			
加奈陀	五七	六六			
アルゼンチン	三	四			
ウルグアイ	一	一			
亞米利加合計	一、二三九	一、七一八			

(c)亞細亞		
日本(北海道)	三九	七六
滿洲國	四	二六
イラン	九	一
亞細亞合計	五二	三一
(d)濠洲		
ヴイクトリア(マフラ)	六	六
甜菜糖生産高	九、七九三	九、一二四
B甘蔗糖		
(a)歐洲		
西班牙	一八	一五
(b)亞米利加		
ルイジヤナ及びフロリダ	二五〇	二三二
ポルトリコ	七〇八	一、〇一〇
布哇	八六二	八六六
ヴアージン群島	二	五
玖瑪	二、六一一	二、三四〇
トリニダード	一二〇	一〇七
バルバドス	四五	八一
ヂヤマイカ	七六	七四

西班牙	一	一八	一五
(b)亞米利加			
ルイジヤナ及びフロリダ		二五〇	二三二
ポルトリコ		七〇八	一、〇一〇
布哇		八六二	八六六
ヴアージン群島		二	五
玖瑪		二、六一一	二、三四〇
トリニダード		一二〇	一〇七
バルバドス		四五	八一
ヂヤマイカ		七六	七四
アンテイグア、聖キツツ、聖ルシア及び聖ヴインセント		五四	五七
マルチニーク及びグアデループ		九〇	八五
ドミニカ及びハイチ		四六七	四一四
メキシコ		二九六	二〇九
グアテマラ、コスタリカ、ホンヂユラス、ニカラガ、サンサルヴアドル及びパナマ		三七	四一
英領ギヤナ		一三四	一四四
蘭領ギヤナ		一八	一八
アルゼンチン		三四二	三一六
ブラジル		九七五	九六九
ペルー		四〇〇	四二〇
ヴエネズエラ、コロムビヤ、エクアドル、ボリヴイア及びパラグアイ		八一	九三
亞米利加合計		七、五六八	七、四八一
(c)亞細亞			
英領印度		三、一二〇	三、一〇六

爪哇	七〇三	一、五〇四	
日本	一、一五四	八〇二	
比律賓	六三〇	一、四三四	
支那、印度支那及び暹羅	二七五	二六四	
亞細亞合計	五、八八二	七、一一〇	
(d)阿弗利加			
埃及	一三七	一五四	
モウリシヤス	一八三	二六五	
レユニオン	六四	七七	
南阿聯邦	三二五	三五五	
モザムビーク	八二	六八	
アンゴラ、マデイラ、マダガスカル、ケニヤ、ウガンダ、ソマリランド、白領コンゴ及びケープヴエルデ	八六	七七	
阿弗利加合計	八七七	九九六	
(e)濠洲			
クウイーンスランド及びニユー・サウス・ウエイルス	六五一	六七七	
フイジー群島	一一五	一一八	
濠洲合計	七六六	七九五	
甘蔗糖生産高	一五、一一一	一六、三九七	
世界砂糖生産高	二四、九〇四	二五、五二一	

右の表より、甜菜糖の産額が一九三三—三四年度の九、一二四、〇〇〇瓲より一九三四—三五年度は